

人権問題に関する県民意識調査結果報告書【修正版】

① 調査目的

平成13年度に実施した「人権問題に関する県民意識調査」を踏まえ、「福井県人権尊重の社会づくり条例」を制定し、平成20年度にも「人権問題についてのアンケート調査」を実施した。また、平成24年度には国が「人権擁護に関する世論調査」を実施した。

平成20年度の本県調査を基本に、国の調査項目との整合性を図り、平成27年度に県民意識調査を実施し、今後の人権施策の参考とする。

② 調査の概要

調査対象者：20歳以上の県民2,500人

抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出

調査期間：平成27年11月6日～平成27年11月20日

調査方法：郵送調査（無記名回答）

調査実施機関：株式会社アド・ジャパン

回収結果：

配布数（A）	回収数（B）	回収率（B/A）
2,500	1,355	54.2%

③ 調査項目

- ・設問 23問
- ・属性 4項目（年代、性別、地域、職業）

④ 回答者の属性

○性別

男性	女性	無回答	合計
43.1%	56.9%	-	-
(568)	(751)	(36)	(1,355)

○年齢別

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	合計
6.5%	11.1%	13.9%	20.1%	23.4%	25.1%	-	-
(86)	(146)	(183)	(265)	(309)	(332)	(34)	(1,355)

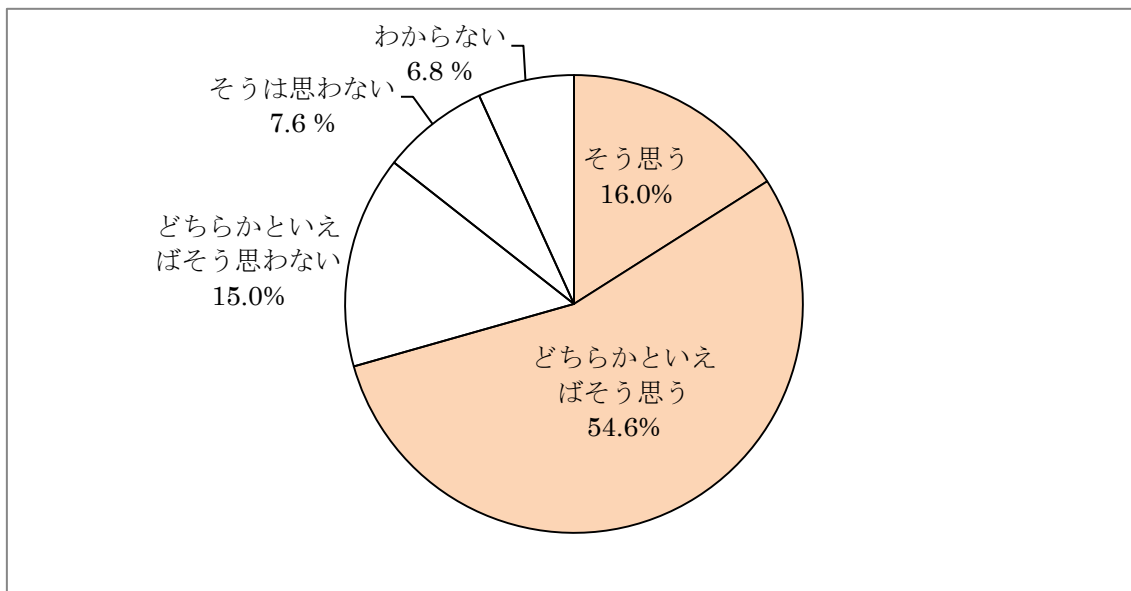
○地域別

福井地区	坂井地区	奥越地区	丹南地区	嶺南地区	無回答	合計
35.8% (474)	14.4% (190)	7.6% (101)	24.3% (322)	17.8% (236)	- (32)	- (1,355)

○職業別

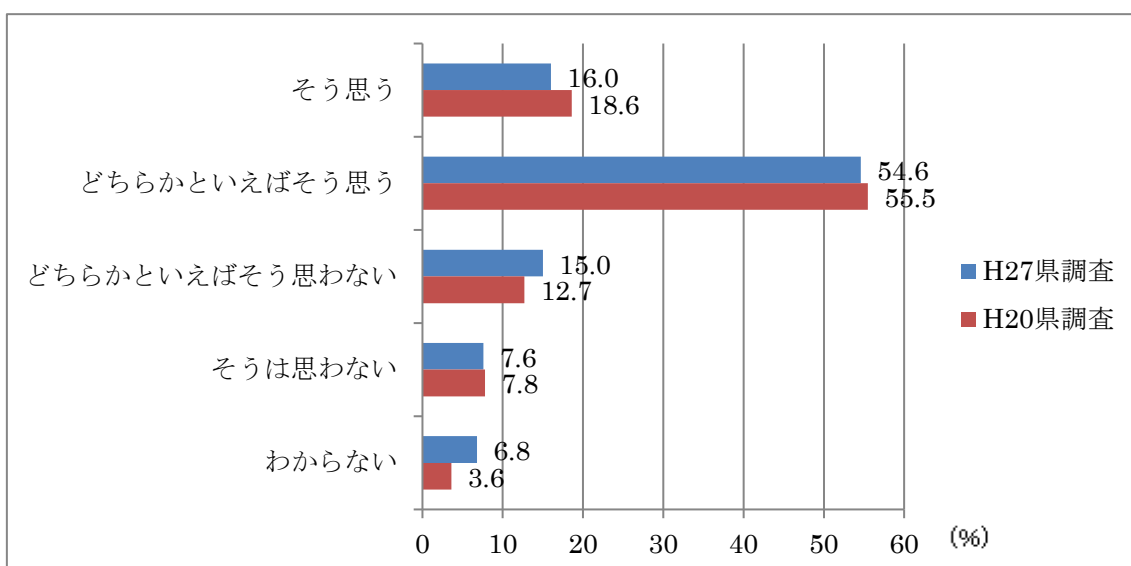
自営業	民間・ 各種団 体	公務員	教員	臨時	学生	無職	その他	無回 答	合計
10.4% (137)	28.0% (368)	3.1% (41)	1.3% (17)	17.9% (235)	0.8% (11)	33.5% (440)	4.8% (63)	- (43)	- (1,355)

問1 あなたは「今の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。(1つ選択)



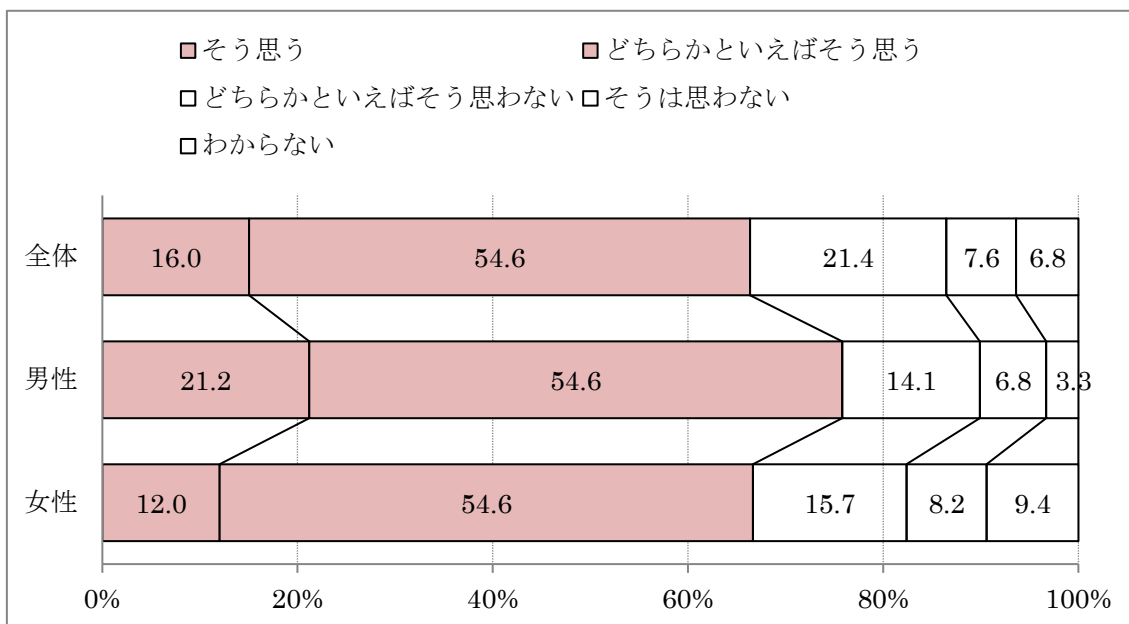
「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」(70.6%)をあわせると、7割以上となっている。

【経年比較】



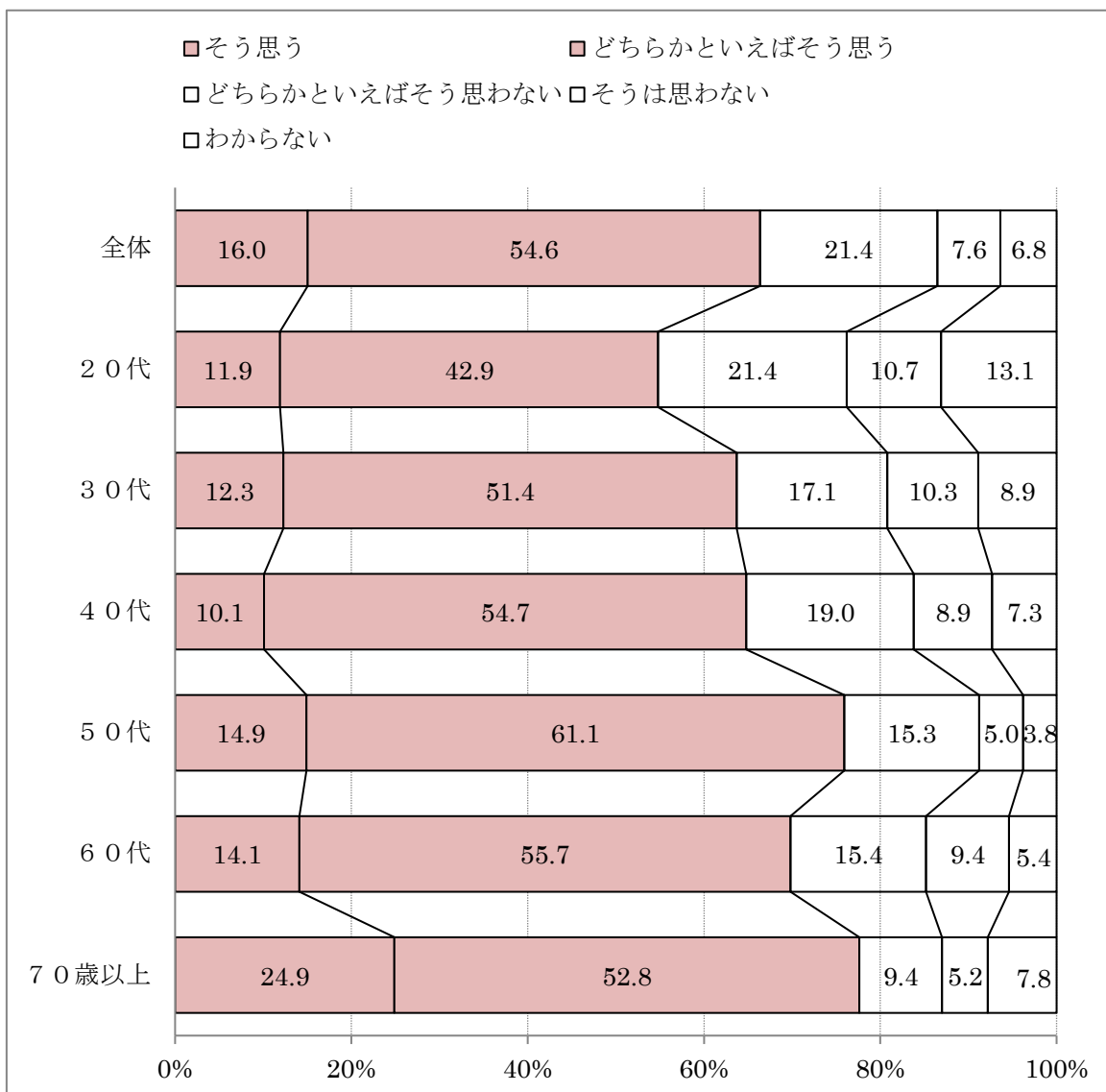
H20県民意識調査(以下、H20県調査という)と比較すると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」(74.1%→70.6%)が減少している。

【性別】



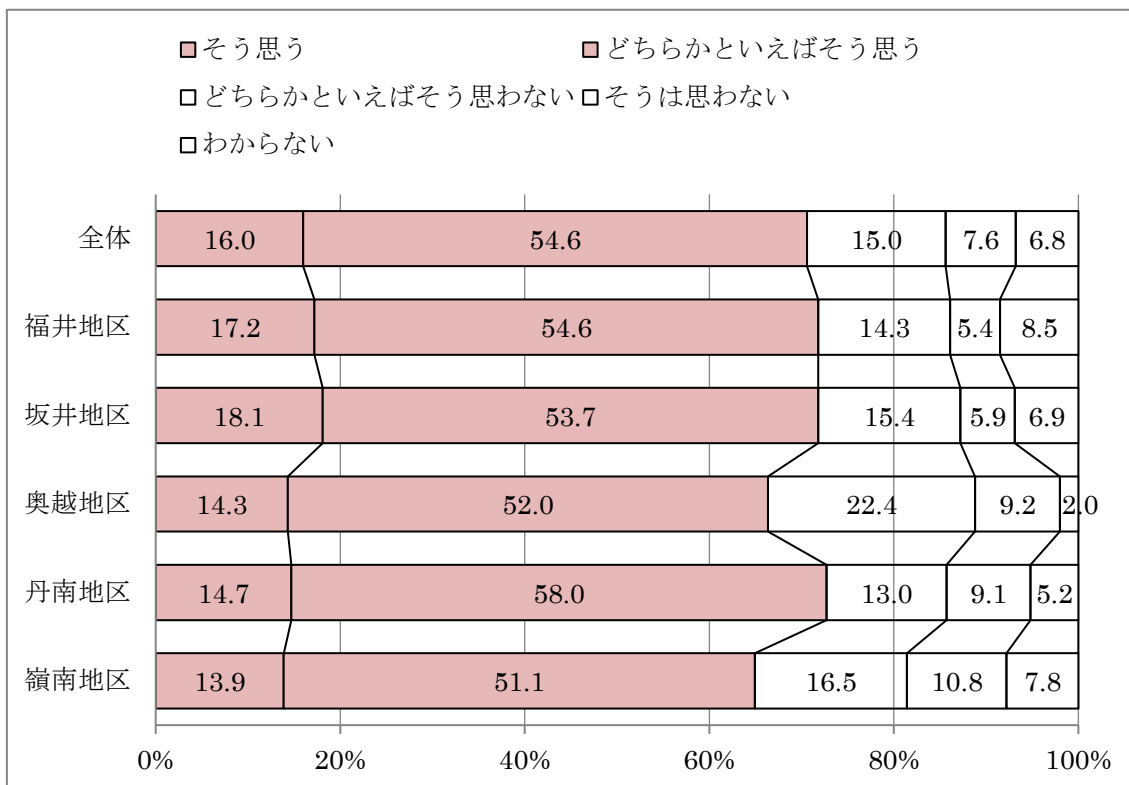
性別で見ると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、「男性」の方が高くなっている（男性：75.8%、女性 66.6%）。

【年齢別】



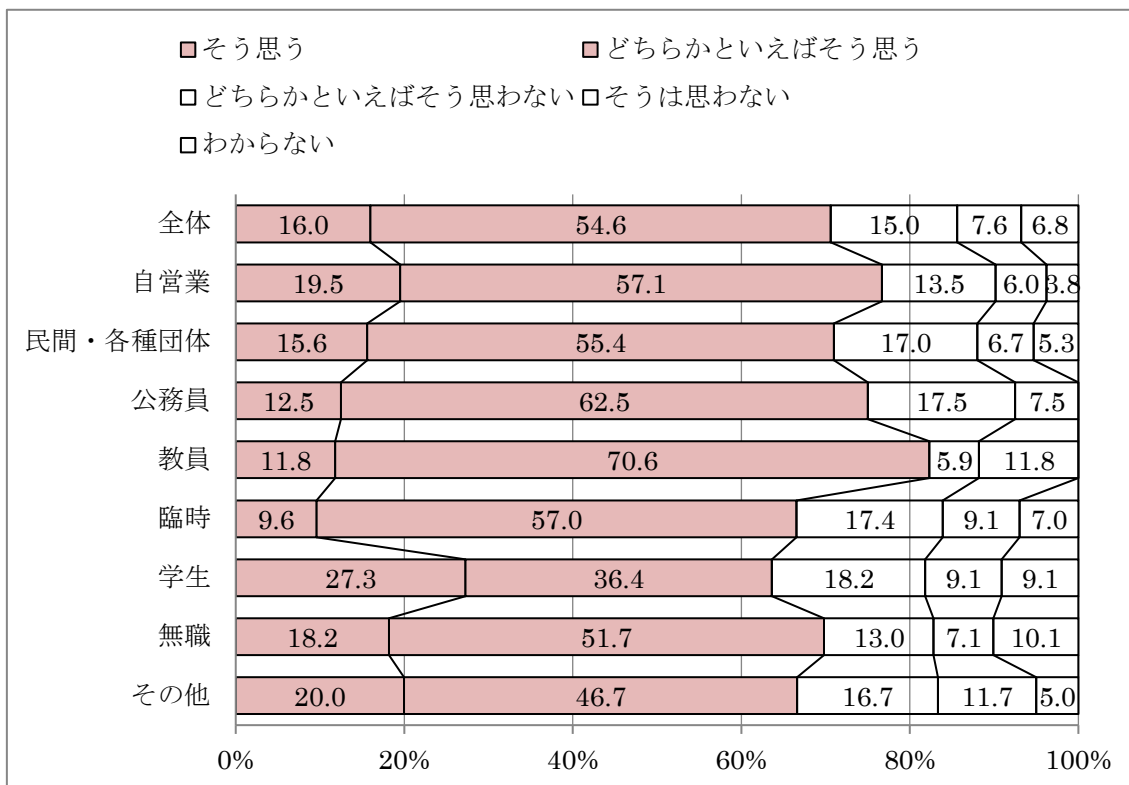
年齢別でみると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、「70歳以上」(77.7%)で最も高く、「20代」(54.8%)で最も低くなっている。

【地域別】



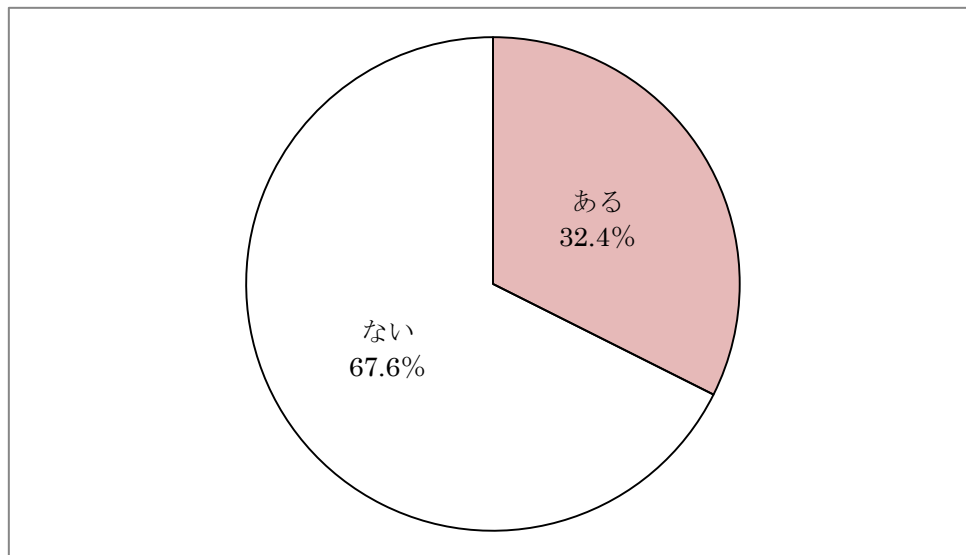
地域別でみると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、「丹南地区」（72.7%）で最も高く、「嶺南地区」（65.0%）で最も低くなっている。

【職業別】



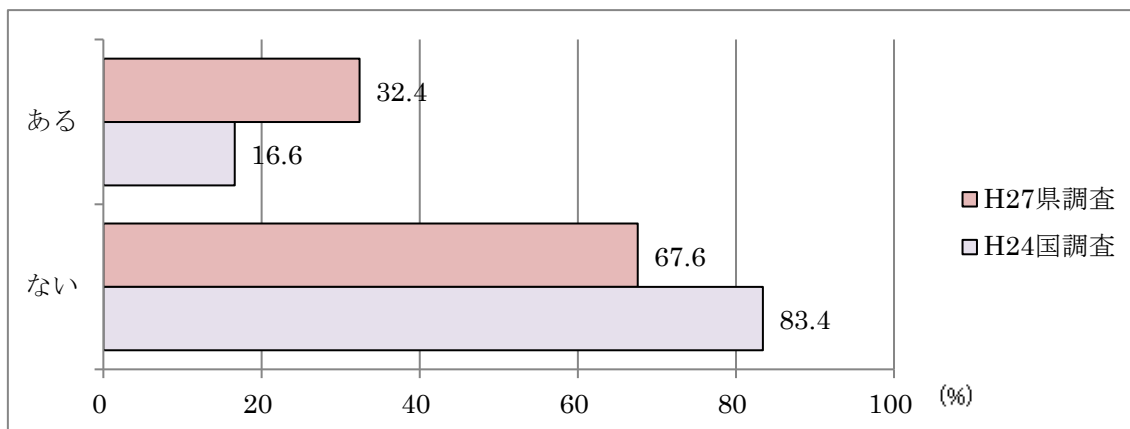
職業別でみると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、「教員」(82.4%)で最も高く、「学生」(63.7%)で最も低くなっている。

問2 (1) これまでに、あなたやあなたのご家族が人権侵害を受けたことがありますか。(1つ選択)



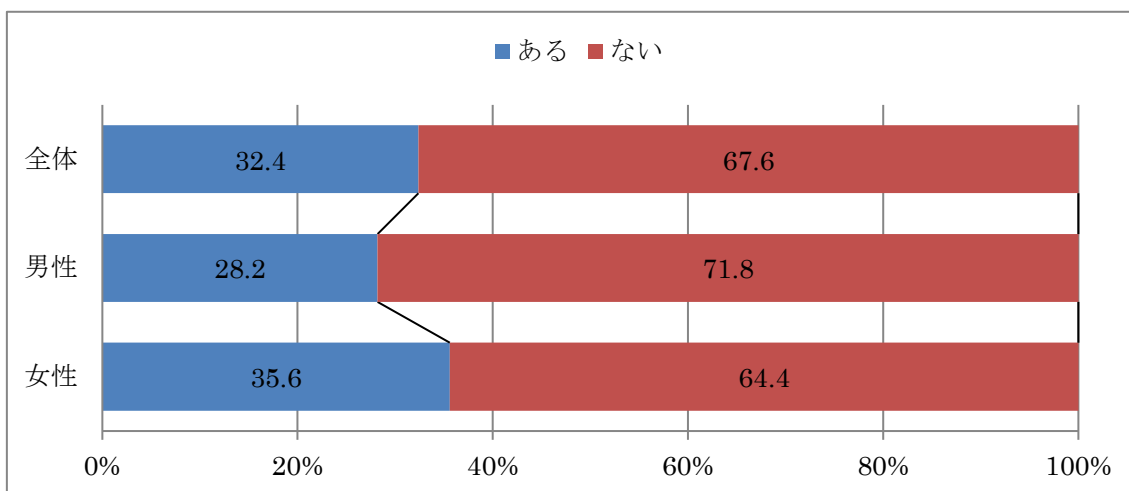
「ある」は32.4%、「ない」は67.6%になっている。

【経年比較】



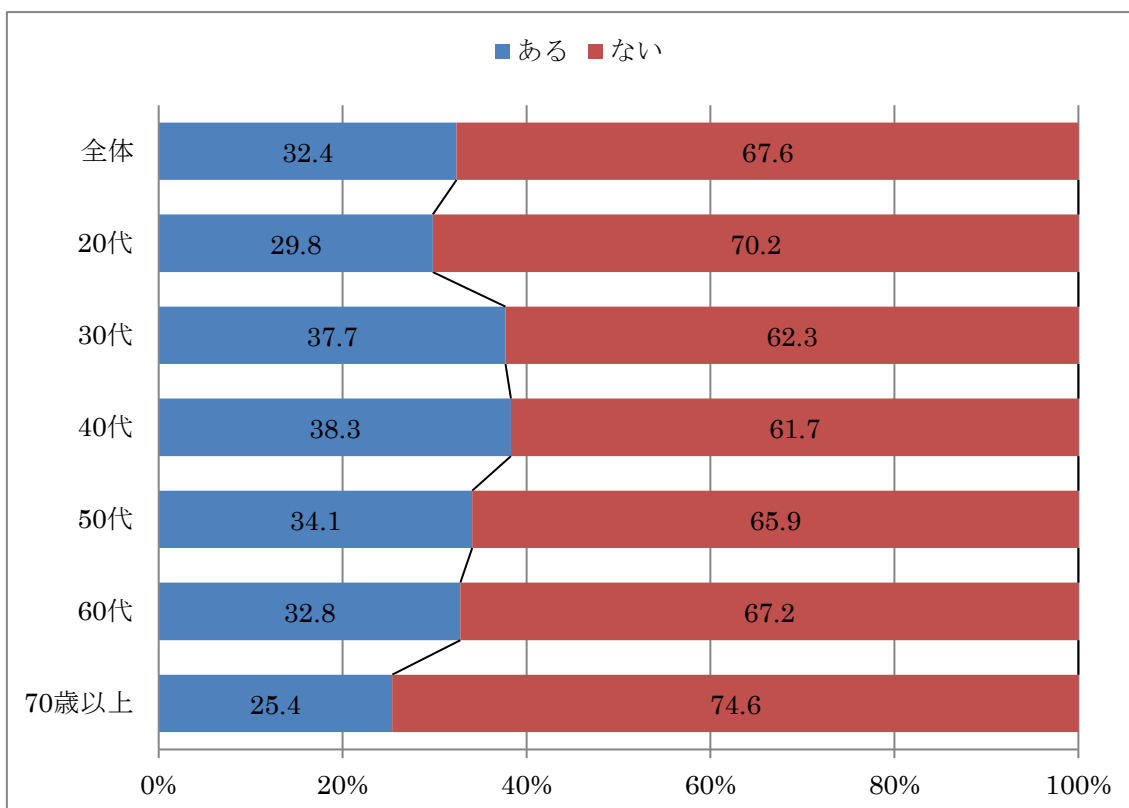
「ある」は32.4%、「ない」は67.6%となっている。

【性別】



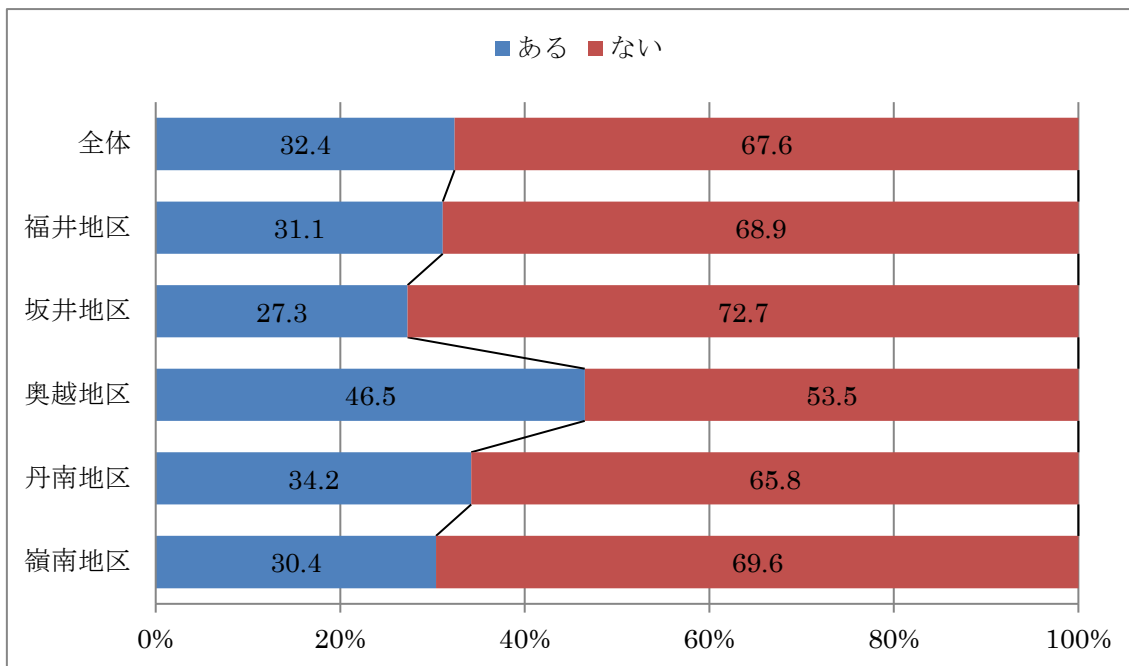
性別でみると、「ある」は「女性」(35.6%)の方が高くなっている。

【年齢別】



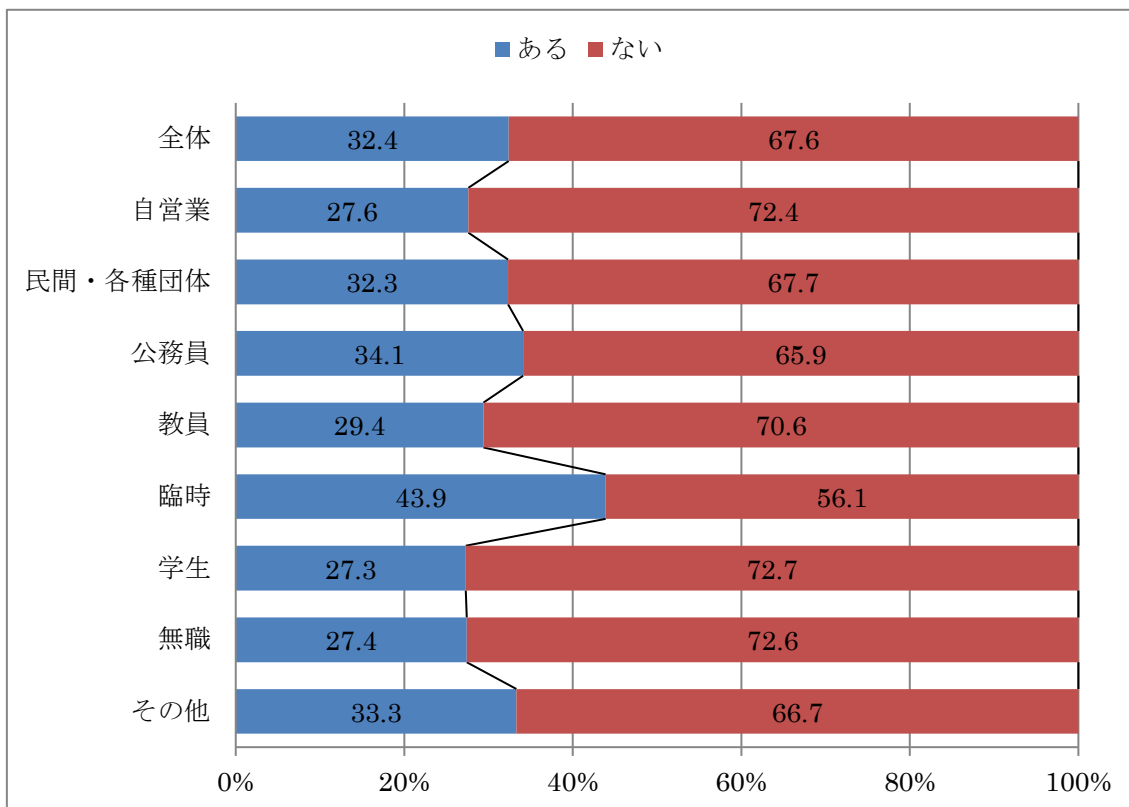
年齢別でみると、「ある」は「40代」(38.3%)で最も高く、「70歳以上」(25.4%)で最も低くなっている。

【地域別】



地域別でみると、「ある」は「奥越地区」(46.5%)で最も高く、「坂井地区」(27.3%)で最も低くなっている。

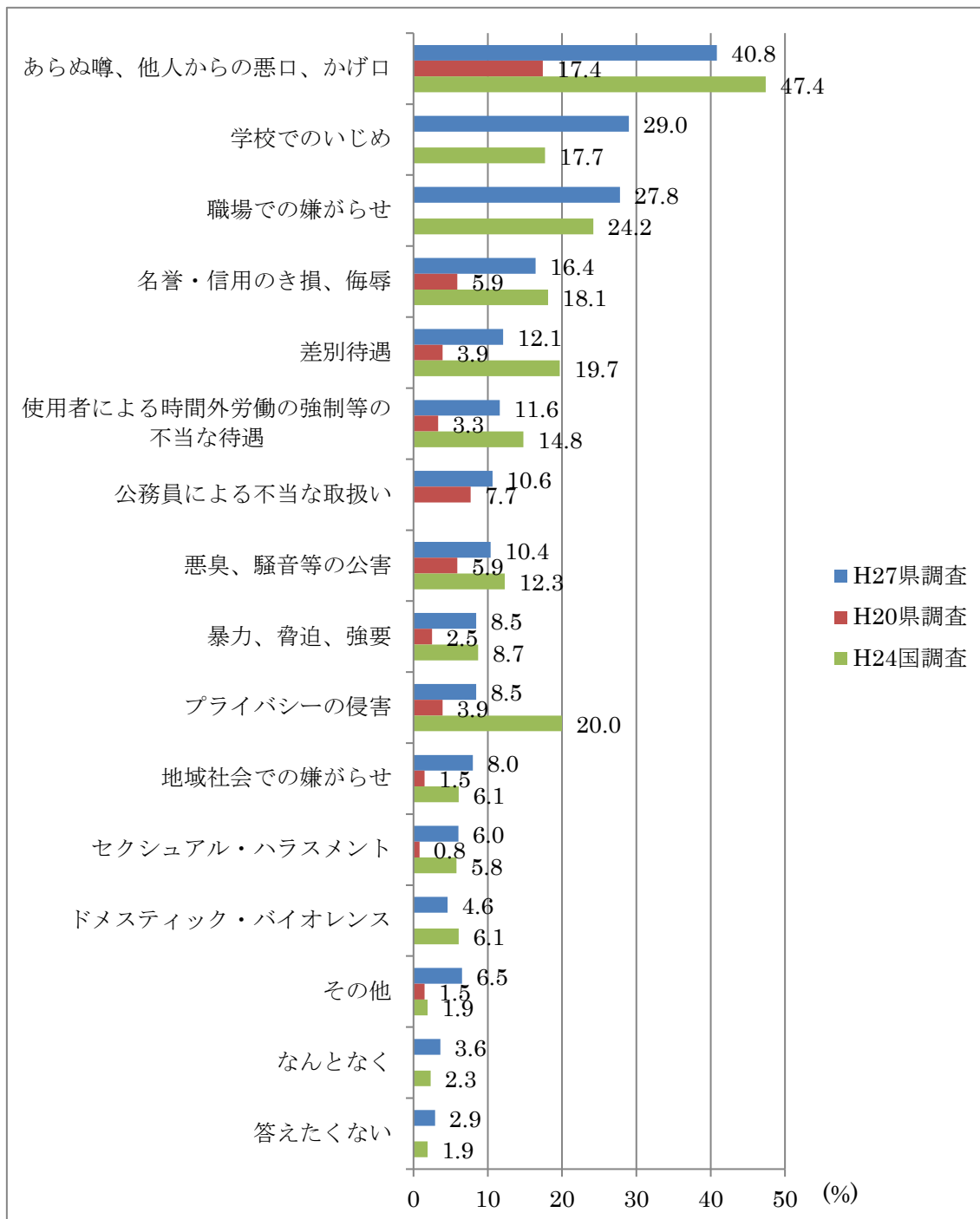
【職業別】



職業別でみると、「ある」は「臨時」(43.9%)で最も高く、「学生」(27.3%)で最も低くなっている。

問2（2）それはどのような人権侵害ですか。（複数選択）

【経年比較】



「これまでに、あなたやあなたのご家族が人権侵害を受けたことがありますか」という問に「ある」と回答した方にその内容を聞いたところ、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ

口」(40.8%)が最も高く、次いで「学校でのいじめ」(29.0%)、「職場での嫌がらせ」(27.8%)となっている。

H20県調査と比較すると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(17.4%→40.8%)などが増加している。

H24国調査と比較すると、「学校でのいじめ」(17.7%→29.0%)などで高くなっており、「プライバシーの侵害」(20.0%→8.5%)などで低くなっている。

【性別】

男女では、「セクシャルハラスメント」(男性 1.9%、女性 8.5%)、「ドメスティックバイオレンス」(男性 1.3%、女性 6.5%)で大きな差がみられる。

【年齢別】

どの年代も「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

【地域別】

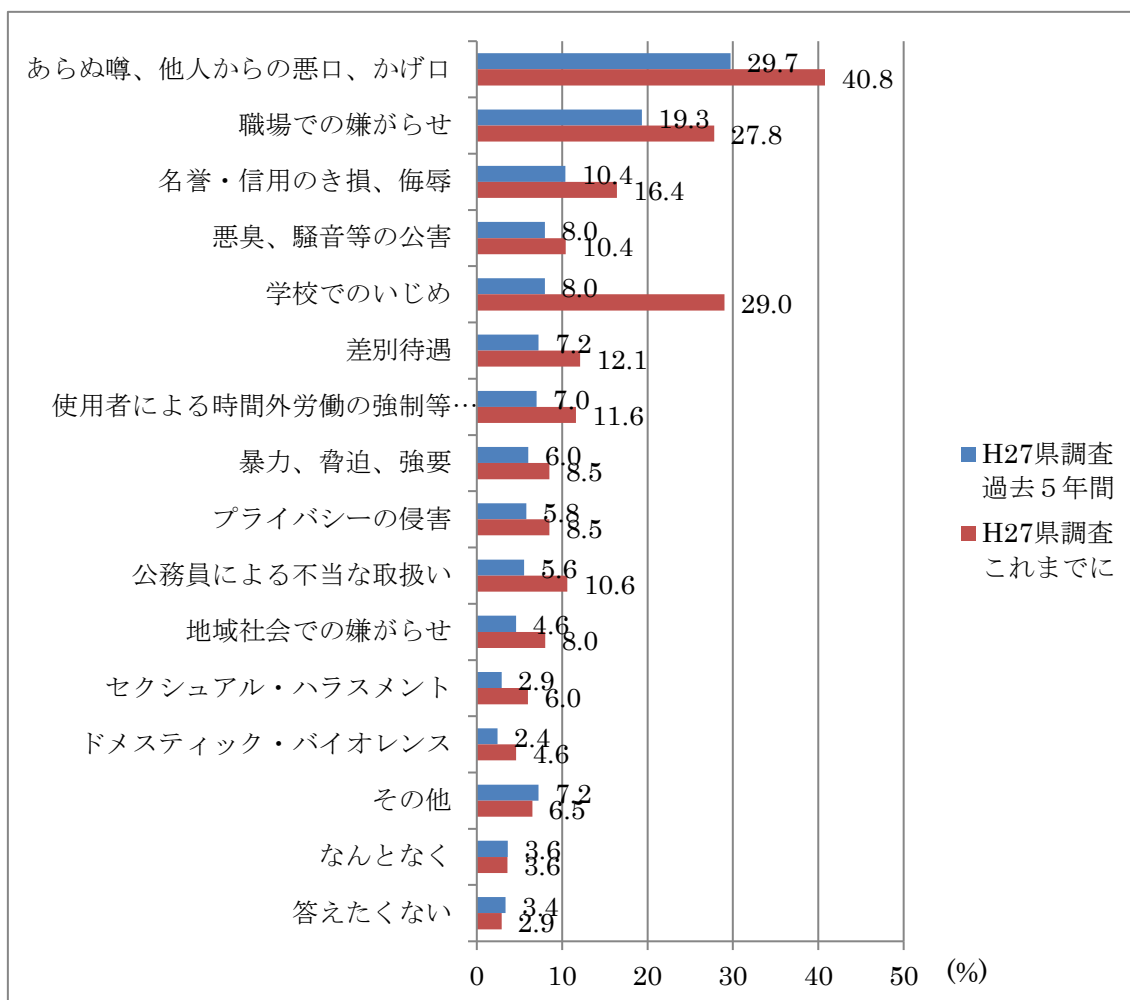
どの地区も「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

【職業別】

「自営業」・「民間・各種団体」・「公務員」・「臨時」・「無職」では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が、「教員」・「学生」では、「学校でのいじめ」が最も高くなっている。

問2(3) (2)に記載していただいた内容について、過去5年間に限ると、どのような人権侵害を受けたことがありますか。(複数回答可)

【経年比較】



「あらかぬ噂、他人からの悪口」(29.7%)が最も高く、次いで「職場での嫌がらせ」(19.3%)、「名誉・信用のき損、侮辱」(10.4%)となっている。

問2(2)と比較すると、「学校でのいじめ」(29.0%→8.0%)が大きく減少している。

【性別】

男女では、「使用者による時間外労働の強制等の不当な待遇」(男性10.4%、女性5.0%)、「セクシャルハラスメント」(男性0.0%、女性4.6%)で大きな差がみられる。

【年齢別】

どの年代も「あらかぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高く、次いで「職場での嫌が

らせ」となっている。

【地域別】

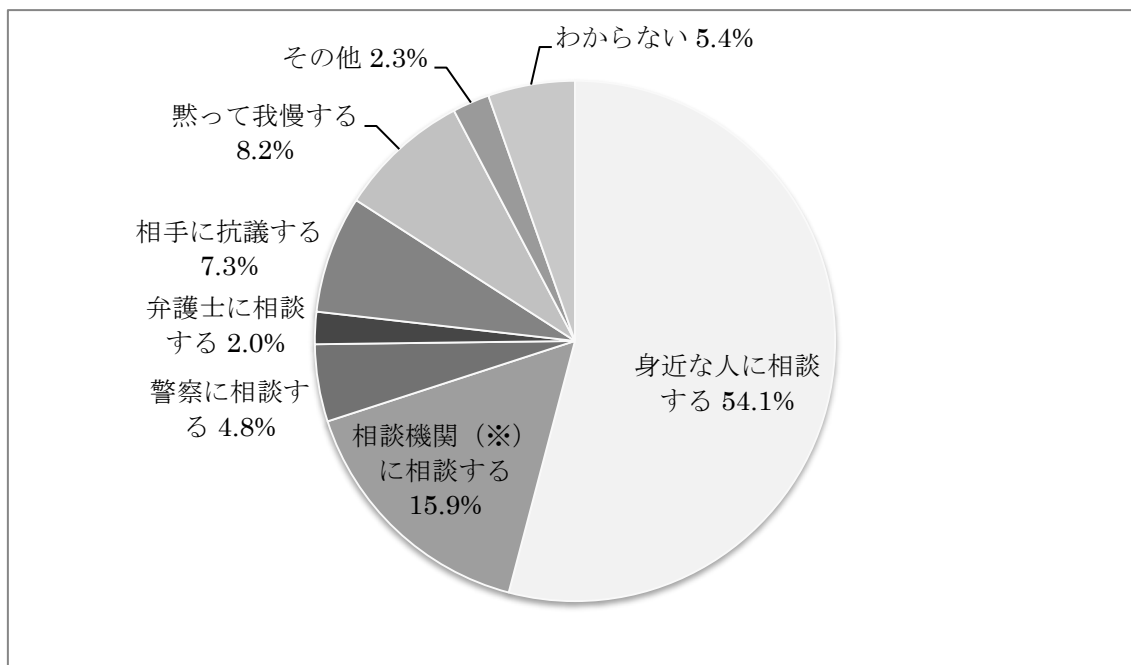
どの地区も「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高く、次いで「職場での嫌がらせ」となっている。

【職業別】

「自営業」・「民間・各種団体」・「公務員」・「臨時」・「無職」では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が、「教員」・「学生」では、「学校でのいじめ」が最も高くなっている。

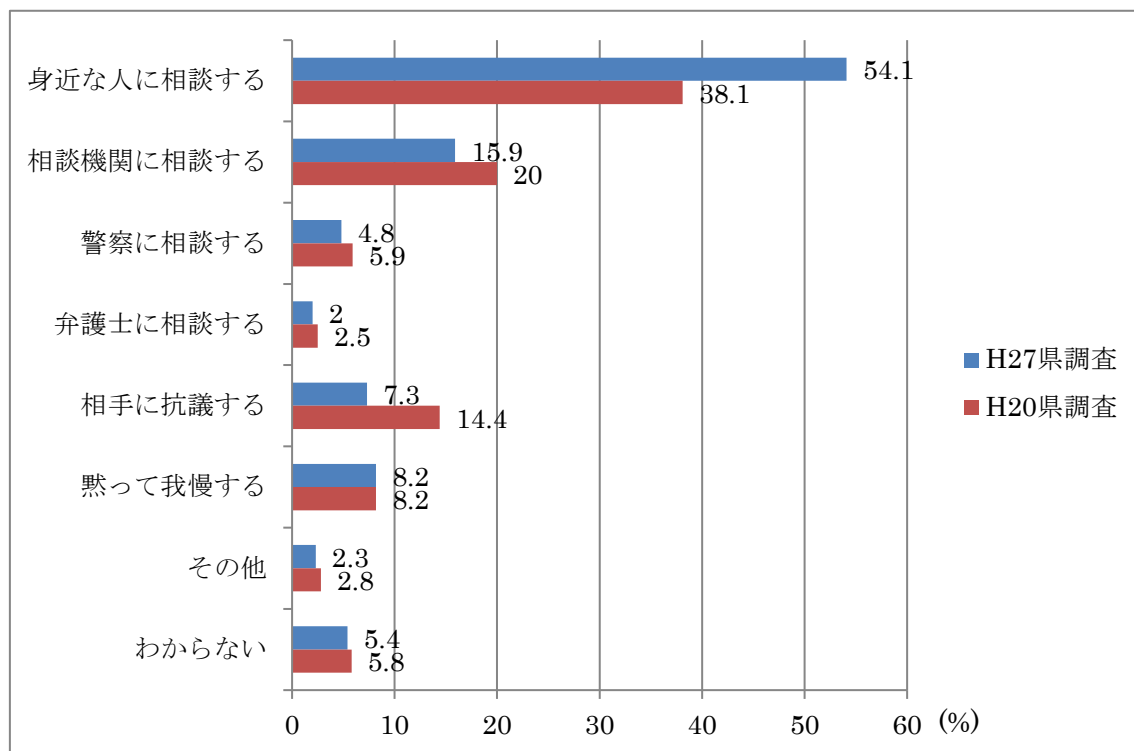
問3 あなたが人権を侵害された場合、まずどのような対応をしますか。

(1つ選択)



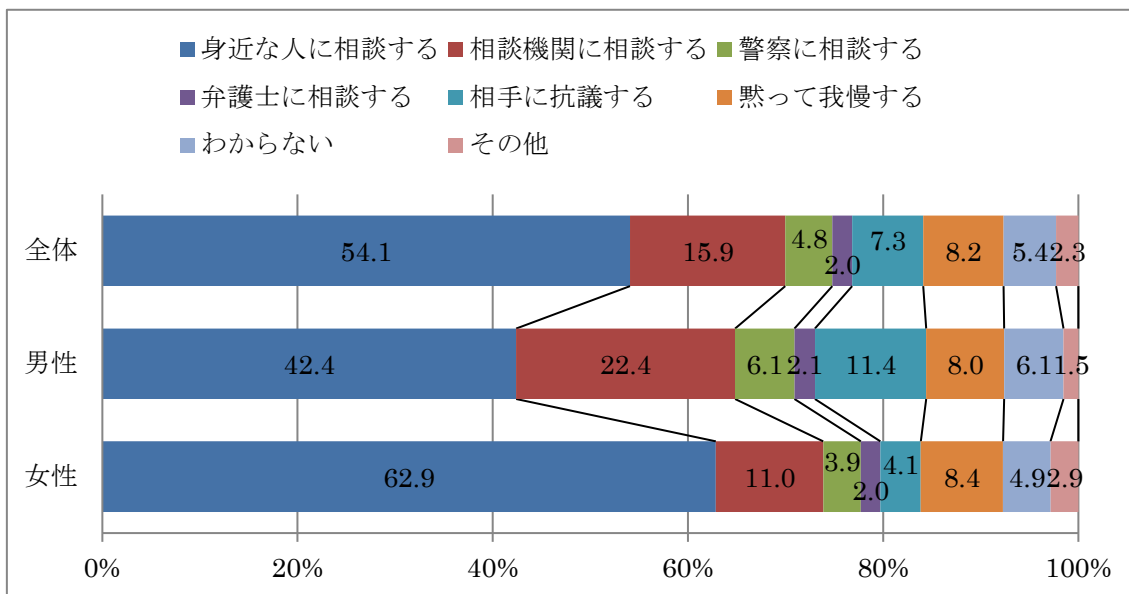
「身近な人に相談する」(54.1%)が最も高く、次いで「相談機関に相談する」(15.9%)、「黙って我慢する」(8.2%)となっている。

【経年比較】



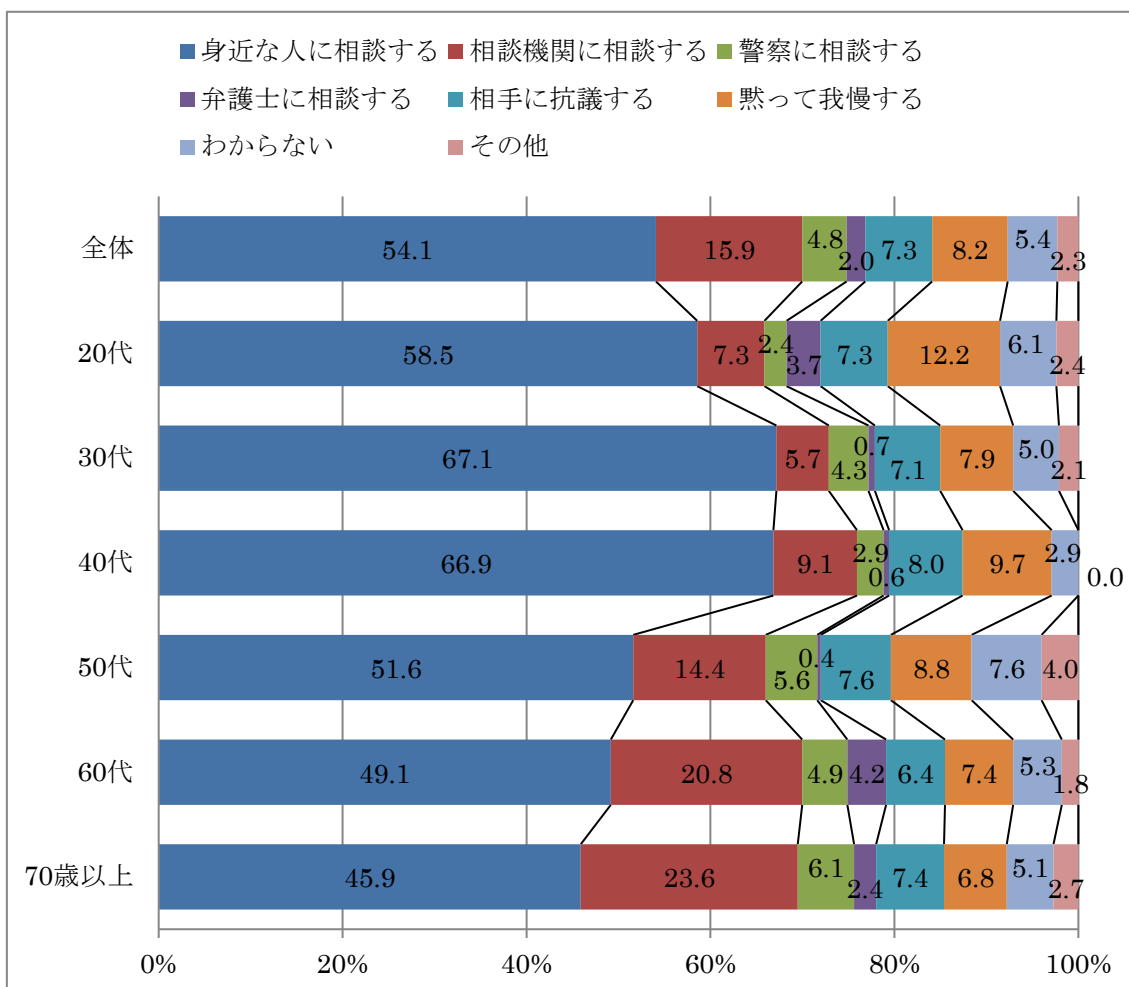
H20県調査と比較すると、「身近な人に相談する」(38.1%→54.1%)が増加している。一方、「相手に抗議する」(14.4%→7.3%)は、減少している。

【性別】



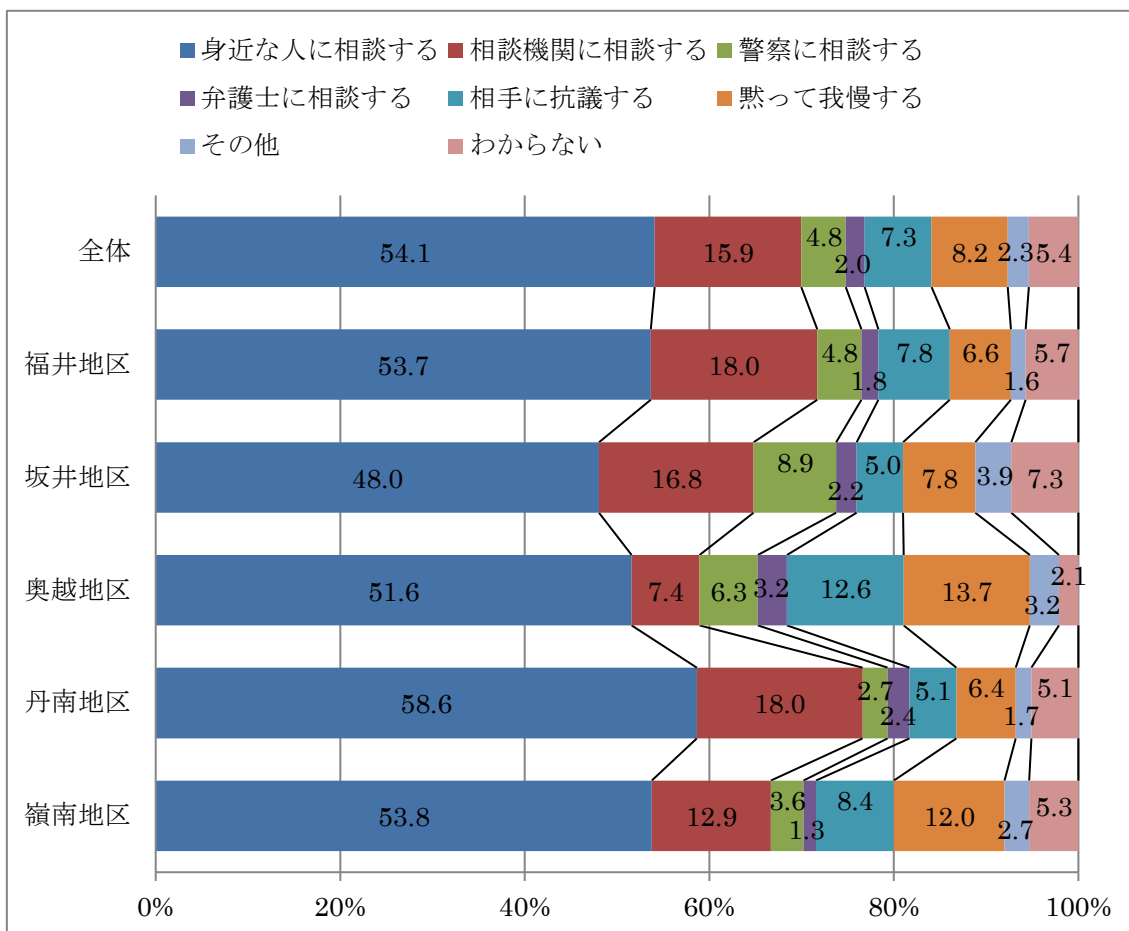
性別で見ると、「身近な人に相談する」（男性：42.4%、女性：62.9%）では、「女性」の方が高くなっている。また、「相談機関に相談する」（男性：22.4%、女性：11.0%）では、「男性」の方が高くなっている。

【年齢別】



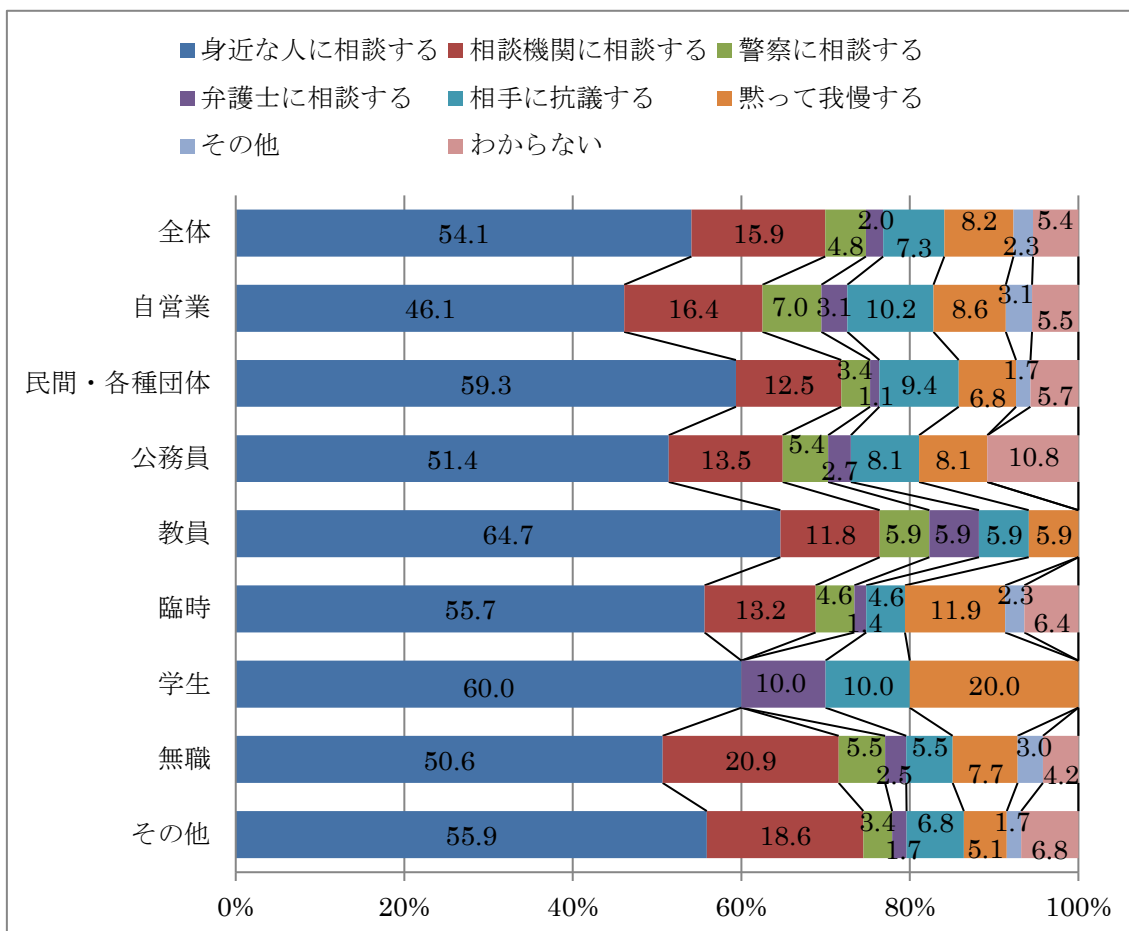
年齢別で見ると、「身近な人に相談する」は、「30代」(67.1%)で最も高く、「70歳以上」(45.9%)で最も低くなっている。また、「相談機関に相談する」は、「70歳以上」(23.6%)で最も高く、「30代」(5.7%)で最も低くなっている。

【地域別】



地域別でみると、「身近な人に相談する」は、「丹南地区」（53.8%）で最も高く、「坂井地区」（48.0%）で最も低くなっている。また、「相談機関に相談する」は、「福井地区」（18.0%）・「丹南地区」（18.0%）で最も高く、「奥越地区」（7.4%）で最も低くなっている。

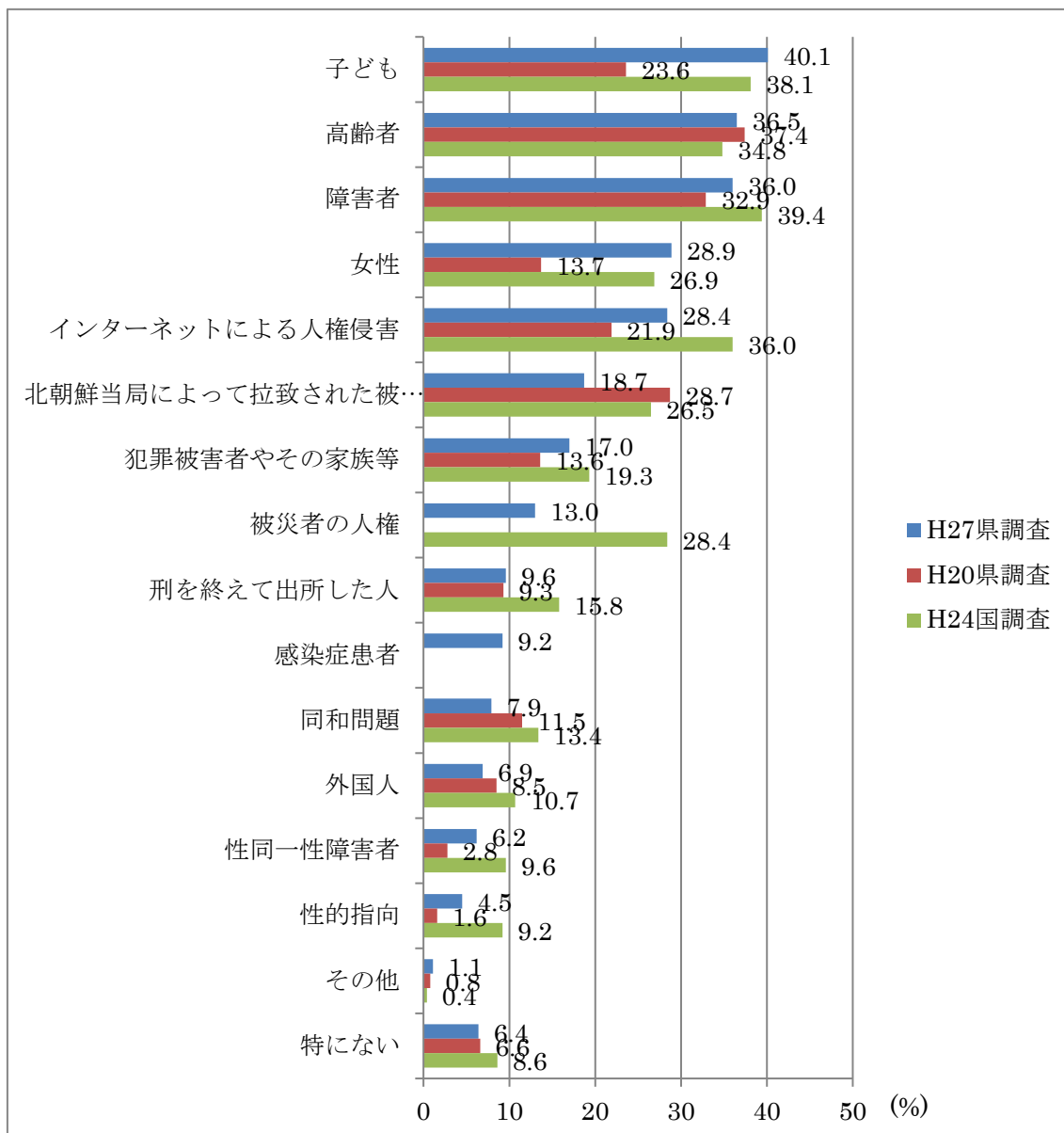
【職業別】



職業別でみると、「身近な人に相談する」は、「教員」(64.7%)で最も高く、「自営業」(46.1%)で最も低くなっている。また、「相談機関に相談する」は、「無職」(20.9%)で最も高く、「学生」(0%)で最も低くなっている。

問4 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。
(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「子ども」(40.1%)が最も高く、次いで「高齢者」(36.5%)、「障害者」(36.0%)となっている。

H20県調査と比較すると、「子ども」(23.6%→40.1%)などは増加しており、「北朝鮮当局によって拉致された被害者やその家族等」(28.7%→18.7%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「被災者の人権」(28.4%→13.0%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、「女性」（男性 21.1%、女性 36.1%）、「子ども」（男性 36.8%、女性 44.6%）で大きな差がみられる。

【年齢別】

「20代」では、「障害者」が、「30代」から「50代」まででは、「子ども」が、「60代」・「70歳以上」では、「高齢者」が最も高くなっている。

【地域別】

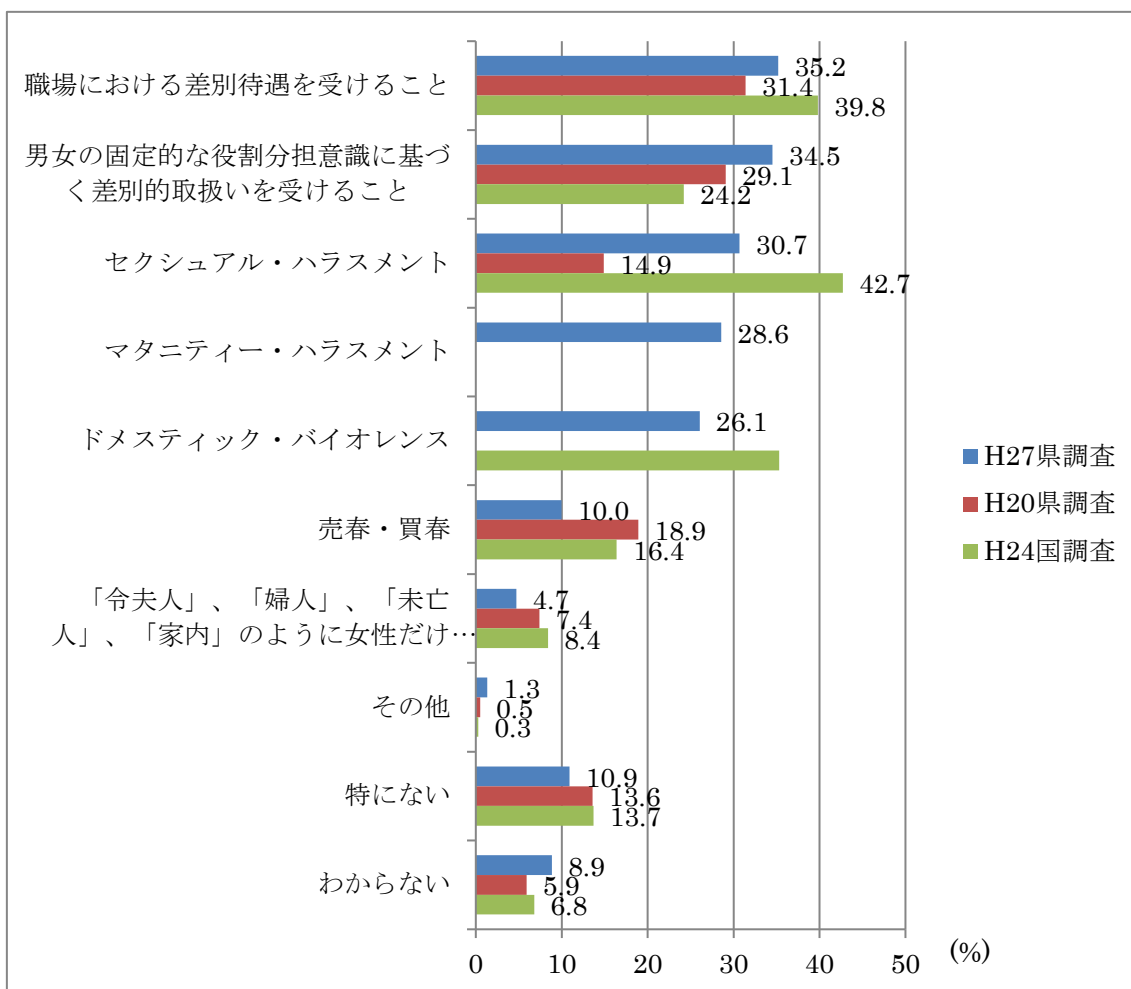
「福井地区」・「坂井地区」・「丹南地区」では、「子ども」が、「奥越地区」では、「高齢者」が、「嶺南地区」では、「障害者」が最も高くなっている。

【職業別】

「民間・各種団体」・「公務員」・「臨時」・「学生」・「無職」では、「女性」が、「自営業」では、「障害者」が、「無職」では、「高齢者」が最も高くなっている。

問5 女性に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「職場における差別待遇を受けること」(35.2%)が最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的扱いを受けること」(34.5%)、「セクシュアル・ハラスメント」(30.7%)となっている。

H20県調査と比較すると、「セクシュアル・ハラスメント」(14.9%→30.7%)などは増加しており、「売春・買春」(18.9%→10.0%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的扱いを受けること」(24.2%→34.5%)は高くなっており、「セクシュアル・ハラスメント」(42.7%→30.7%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」（男性 28.9%、女性 40.5%）で大きな差がみられる。

【年齢別】

「20代」・「40代」では、「セクシュアル・ハラスメント」が、「30代」では、「マタニティ・ハラスメント」が、「50代」では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が、「60代」・「70歳以上」では、「職場における差別待遇を受けること」が最も高くなっている。

【地域別】

「福井地区」・「坂井地区」・「丹南地区」では、「職場における差別待遇を受けること」が、「奥越地区」では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が、「嶺南地域」では、「セクシュアル・ハラスメント」が最も高くなっている。

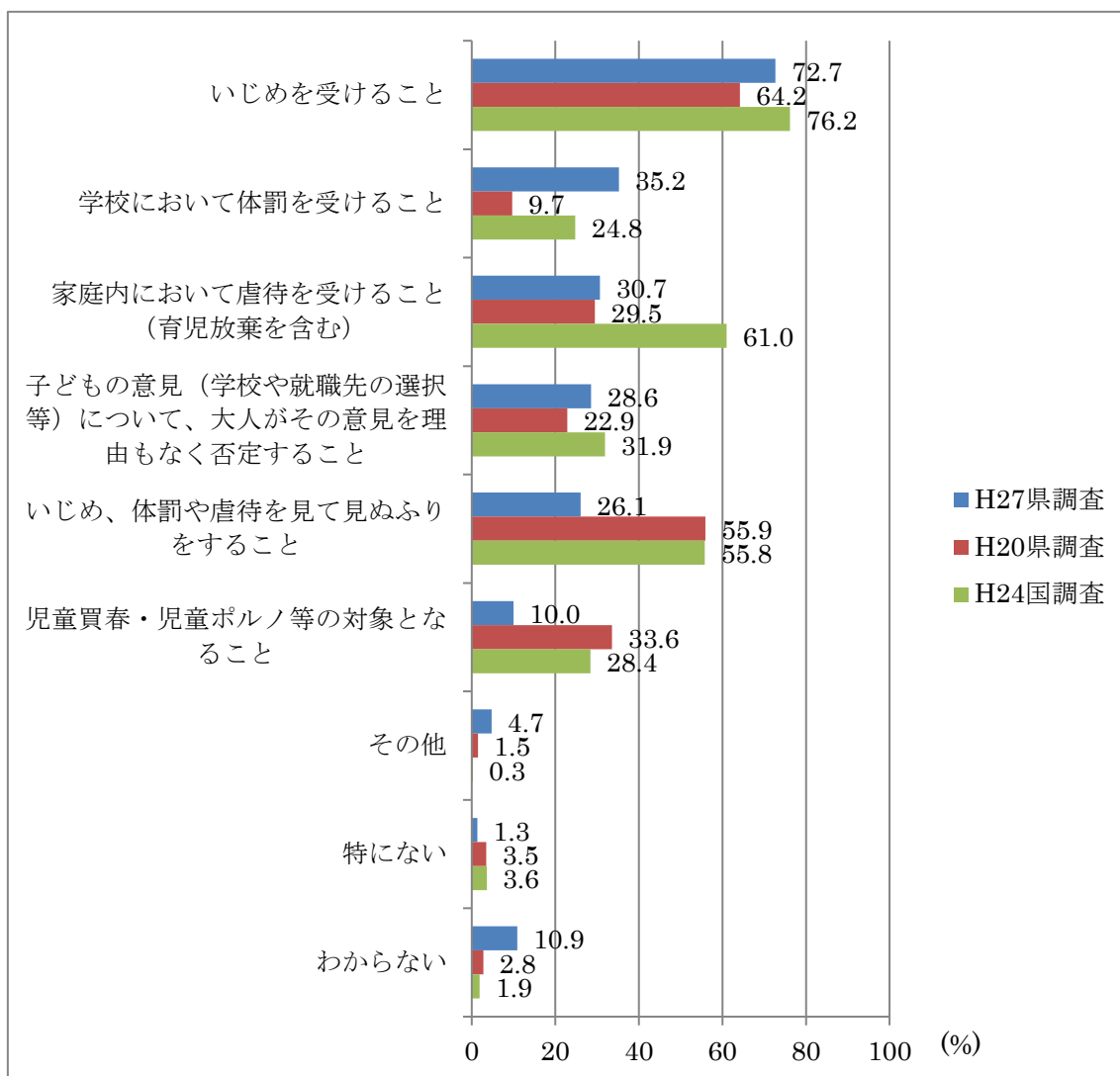
【職業別】

「公務員」・「臨時」・「無職」では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が、「自営業」・「民間・各種団体」では、「職場における差別待遇を受けること」が、「教員」では、「セクシュアル・ハラスメント」が最も高くなっている。

問6 子どもに関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「いじめを受けること」(72.7%)が最も高く、次いで「学校において体罰を受けること」(35.2%)、「家庭内において虐待を受けること」(30.7%)となっている。

H20県意識調査と比較すると、「学校において体罰を受けること」(9.7%→35.2%)などは増加しており、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをすること」(55.9%→26.1%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「学校において体罰を受けること」(24.8%→35.2%)は高くなっており、「家庭内において虐待を受けること」(61.0%→30.7%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「いじめを受けること」が最も高く「20代」から「60代」まででは、7割を超えている。

【地域別】

どの地区も「いじめを受けること」が最も高く、7割を超えている。

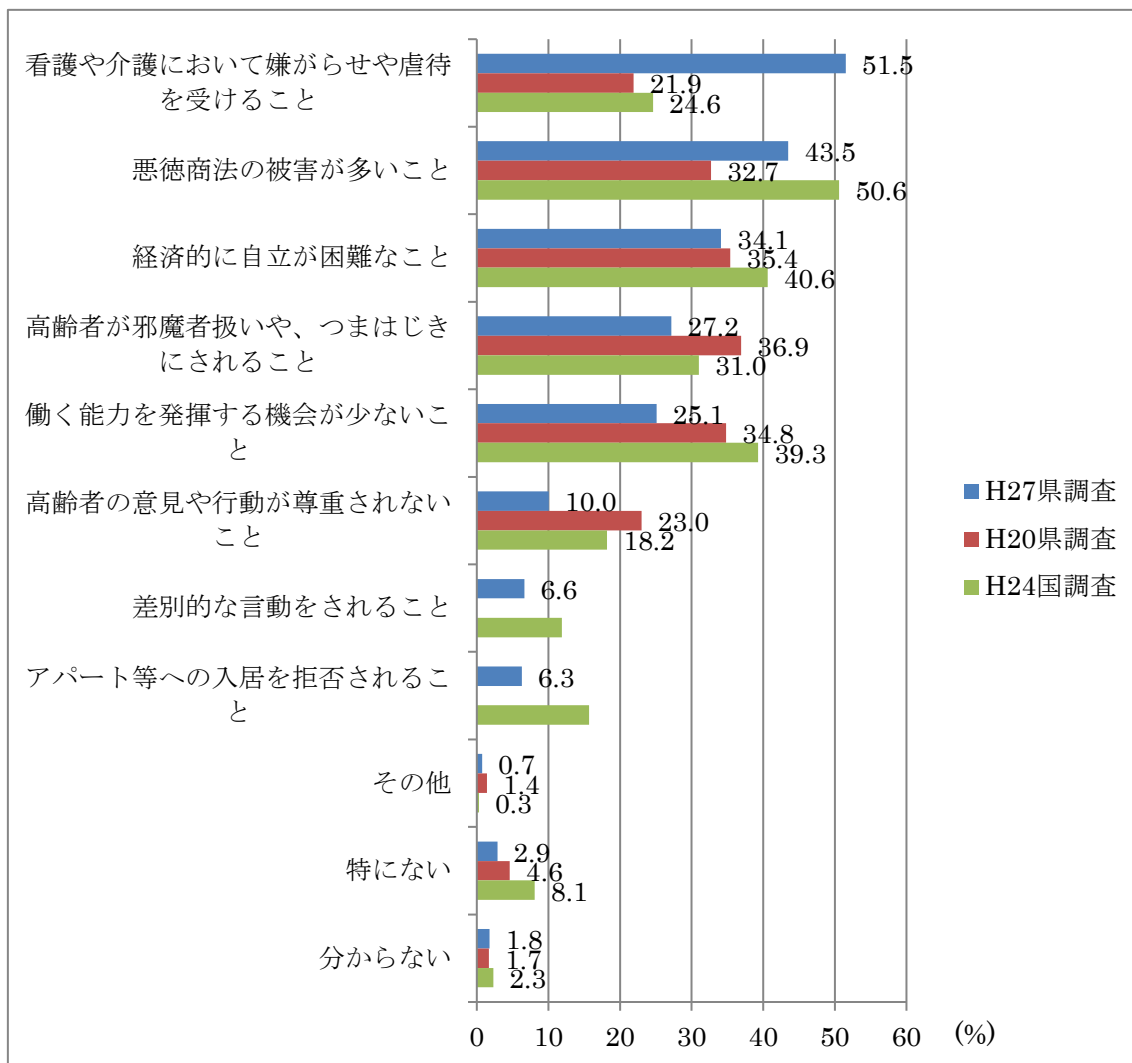
【職業別】

どの職業も「いじめを受けること」が最も高くなっている。

問7 高齢者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」(51.5%)で最も高く、次いで「悪徳商法の被害が多いこと」(43.5%)、「経済的に自立が困難なこと」(34.1%)となっている。

H20県調査と比較すると、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」(21.9%→51.5%)などは増加しており、「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」(23.0%→10.0%)は減少している。

H24国調査と比較すると、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」(24.6%→51.5%)は高くなっており、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」(39.3%→25.1%)

などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

「20代」から「60代」まででは、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高く、次いで「悪徳商法の被害が多いこと」となっている。

【地域別】

どの地区も「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高く、次いで「悪徳商法の被害が多いこと」となっている。

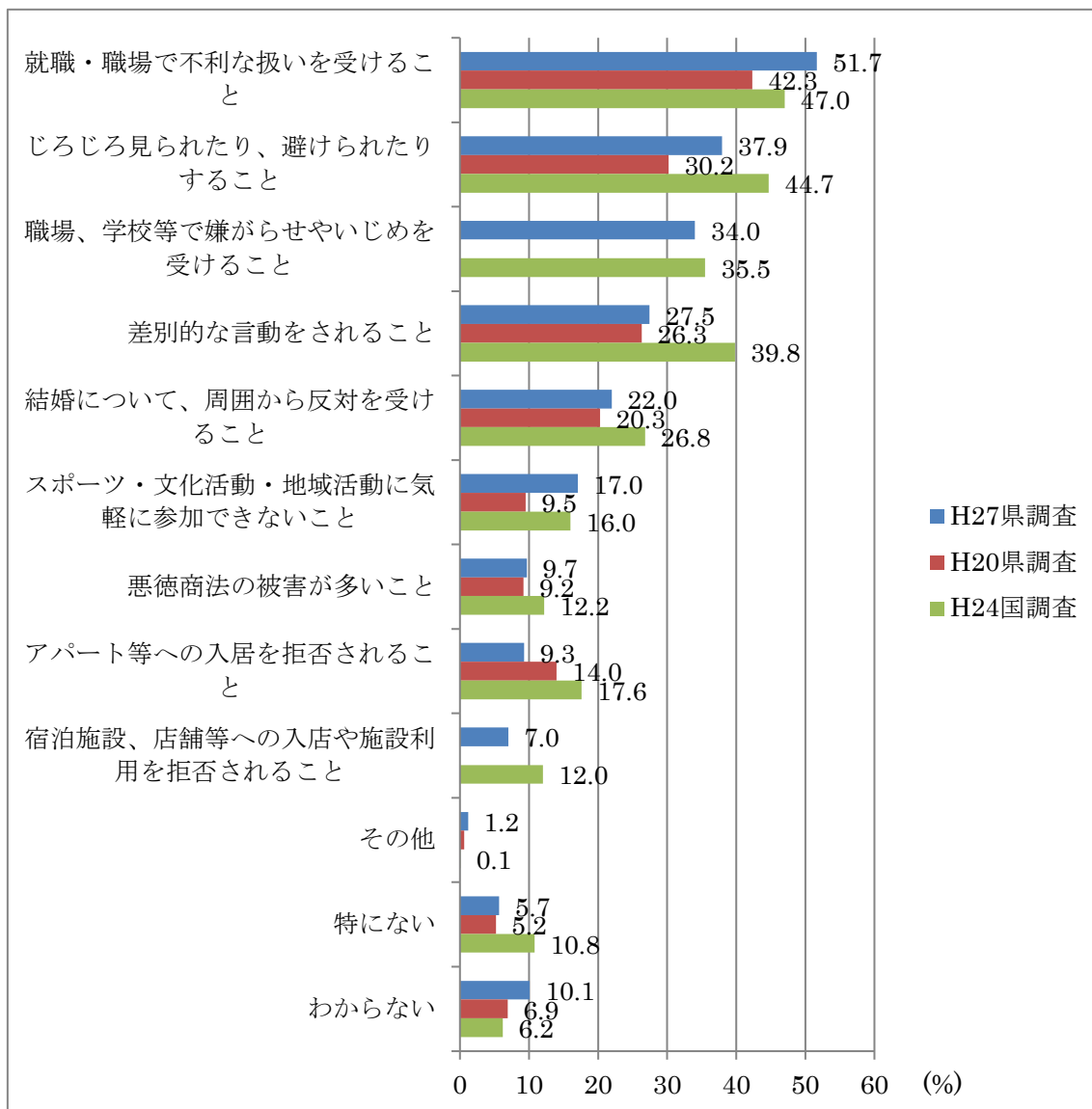
【職業別】

どの職業も「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高く、次いで「悪徳商法の被害が多いこと」となっている。

問8 障害者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(51.7%)が最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりする」(37.9%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(34.0%)となっている。

H20県調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(42.3%→51.7%)などは増加しており、「アパート等への入居を拒否されること」(14.0%→9.3%)は減少している。

H24国調査と比較すると、「差別的な言動をされること」(39.8%→27.5%)などは低く

なっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

「20代」では、「差別的な言動をされること」が、「30代」から「70歳以上」まででは、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

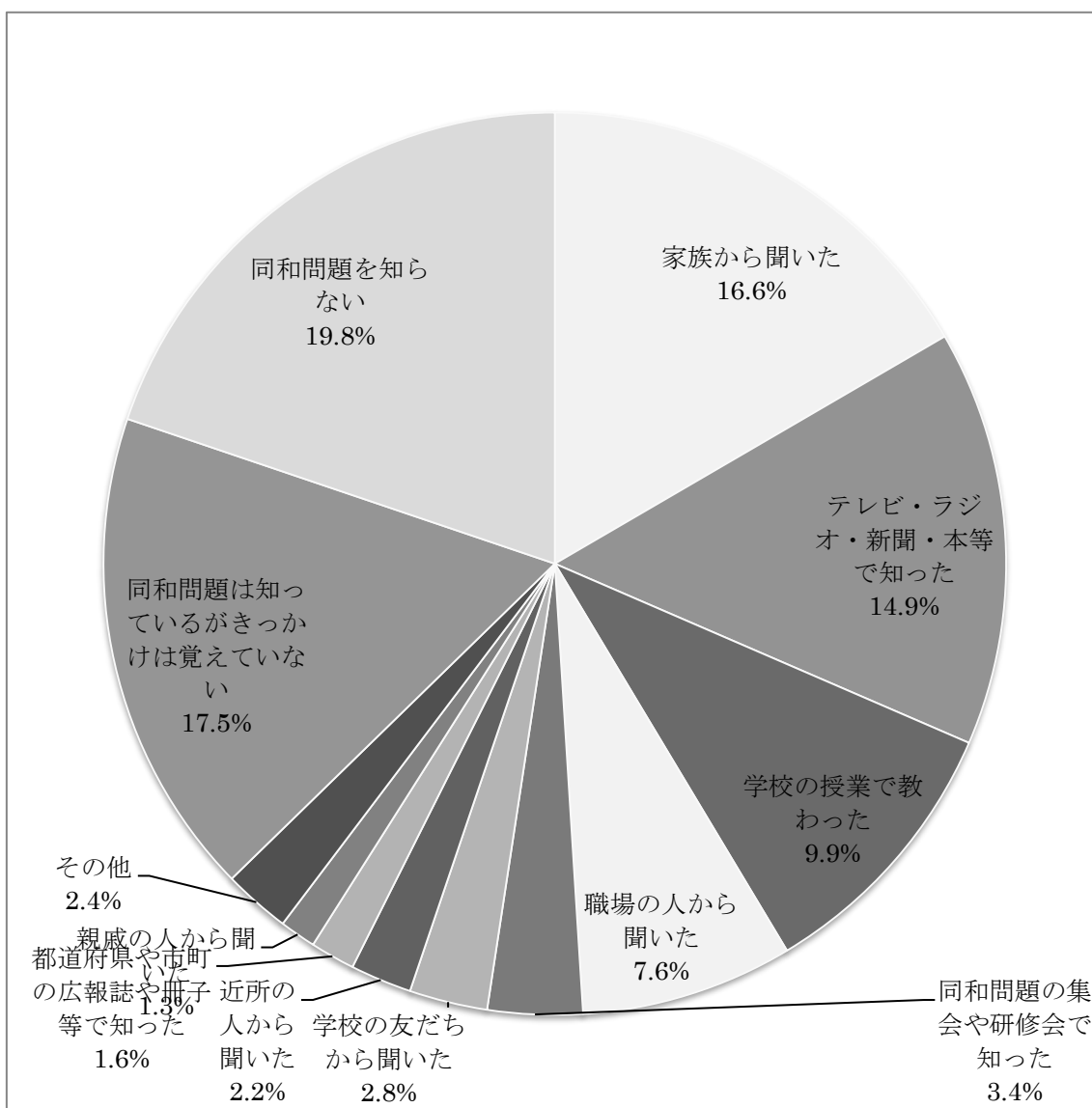
【地域別】

どの地区も「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

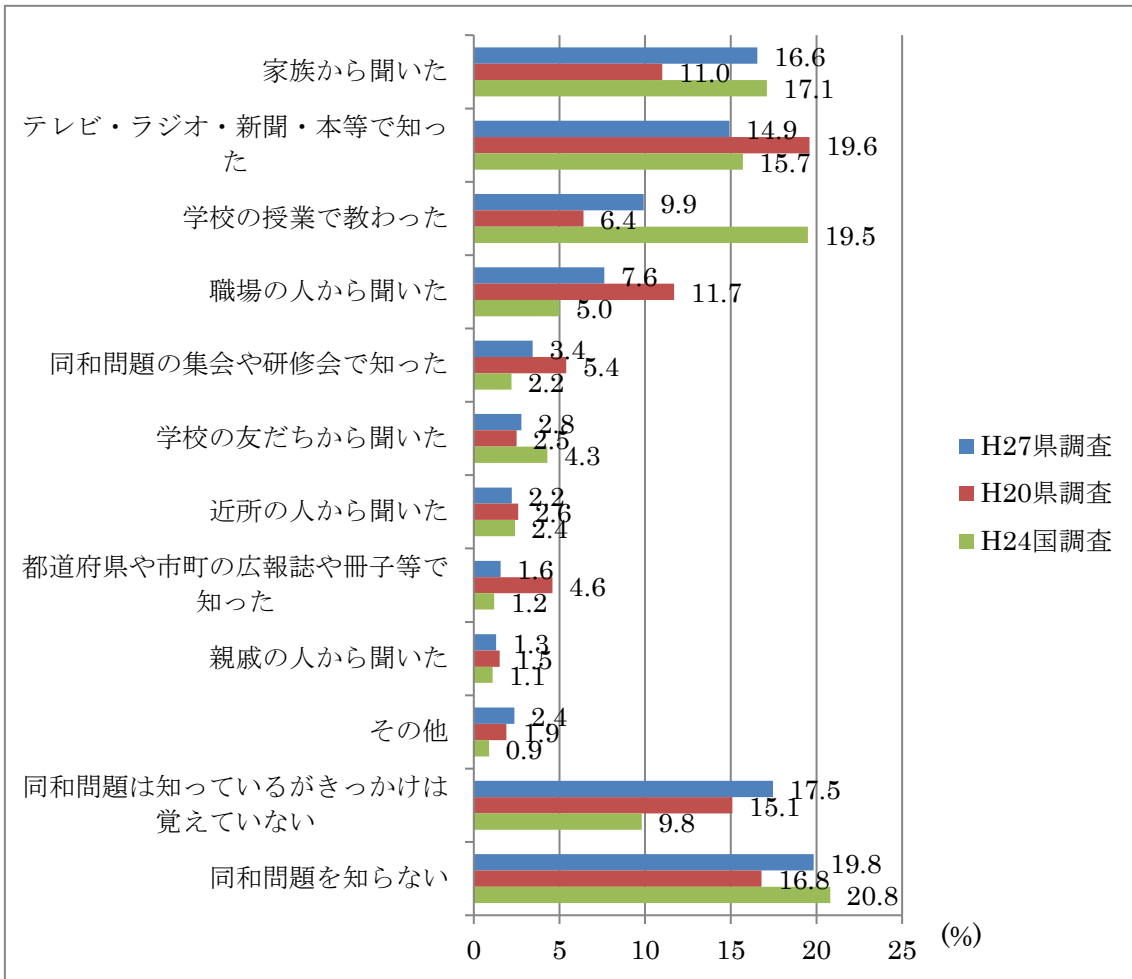
「学生」では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が、他の職業では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

問9 同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは、何からですか。(1つ選択)



「家族から聞いた」(16.6%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」(14.9%)、「学校の授業で教わった」(9.9%)となっている。しかし、「同和問題を知らない」(19.8%)が2割となっている。

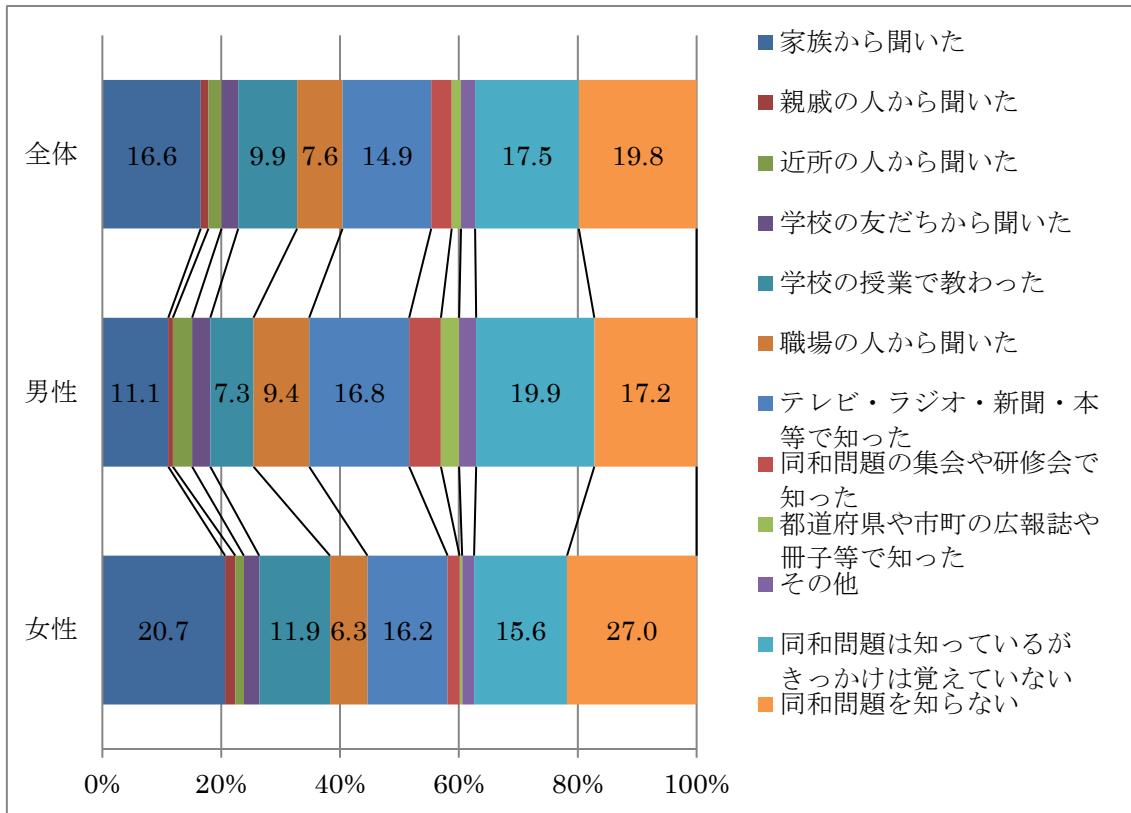
【経年比較】



H20県調査と比較すると、「家族から聞いた」(11.0%→16.6%)などは増加しており、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」(19.6%→14.9%)などは減少している。

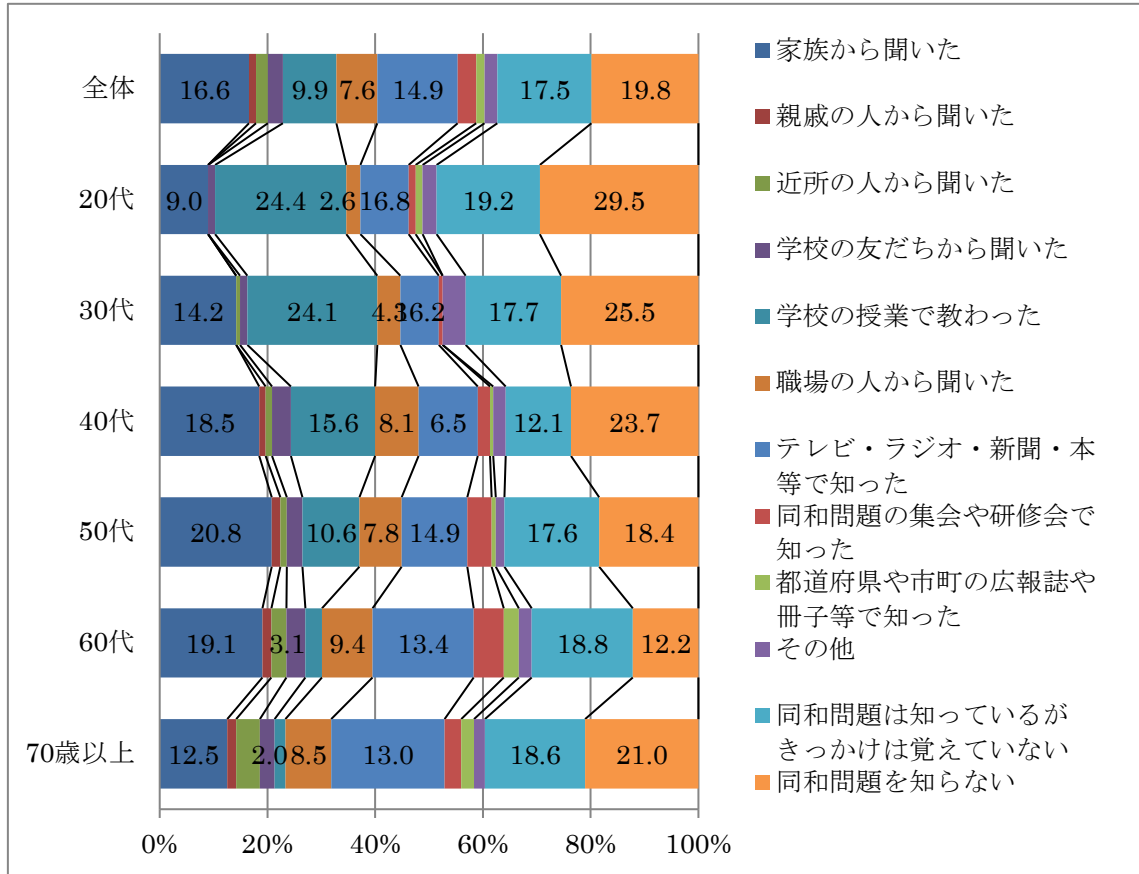
H24国調査と比較すると、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」(9.8%→17.5%)などは高くなっており、「学校の授業で教わった」(19.5%→9.9%)などは低くなっている。

【性別】



性別で見ると、「家族から聞いた」（男性：11.1%、女性：20.7%）では、「女性」の方が高く、また、「同和問題を知らない」（男性：17.2%、女性：27.0%）も、「女性」の方が高くなっている。

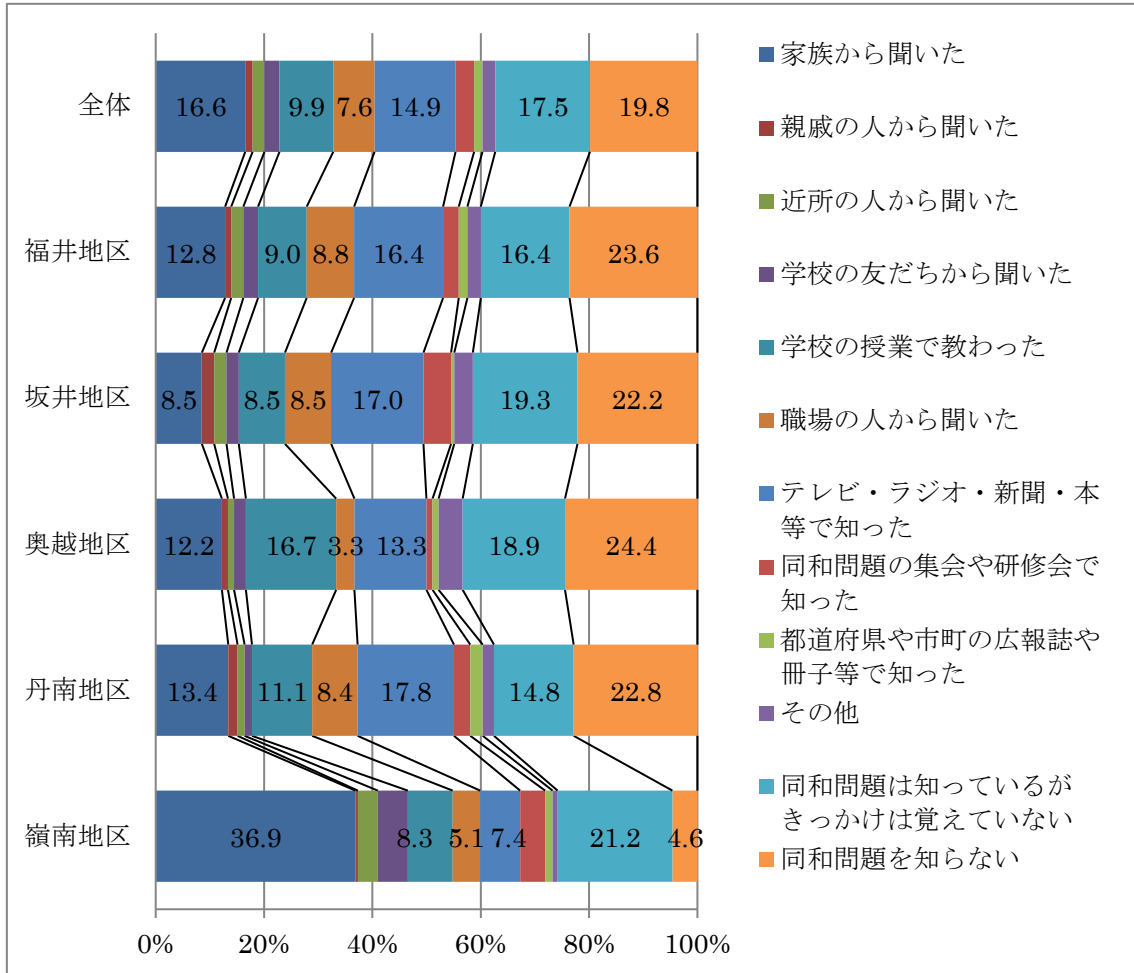
【年齢別】



年齢別でみると、「家族から聞いた」は「50代(20.8%)」で最も高く、「20代(9.0%)」で最も低くなっている。

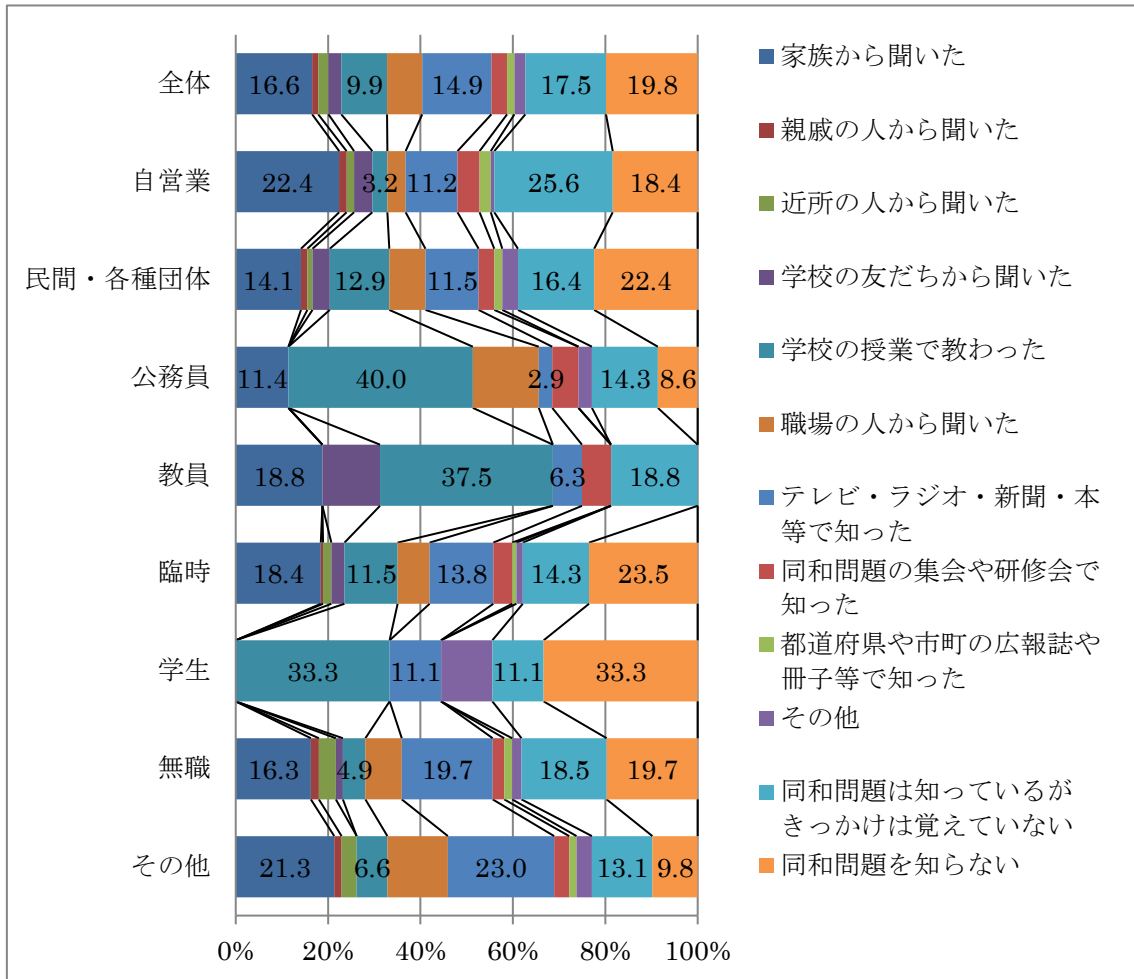
また、「同和問題を知らない」は、「20代(29.5%)」で最も高く、「60代(12.2%)」で最も低くなっている。

【地域別】



地域別でみると、「家族から聞いた」は、「嶺南地区」(36.9%)で最も高く、「坂井地区」(8.5%)で最も低くなっている。また、「同和問題を知らない」は、「嶺南地区」(4.6%)以外の地区(福井地区(23.6%)、坂井地区(22.2%)、奥越地区(24.4%)、丹南地区(22.8%))において、2割を超えている。

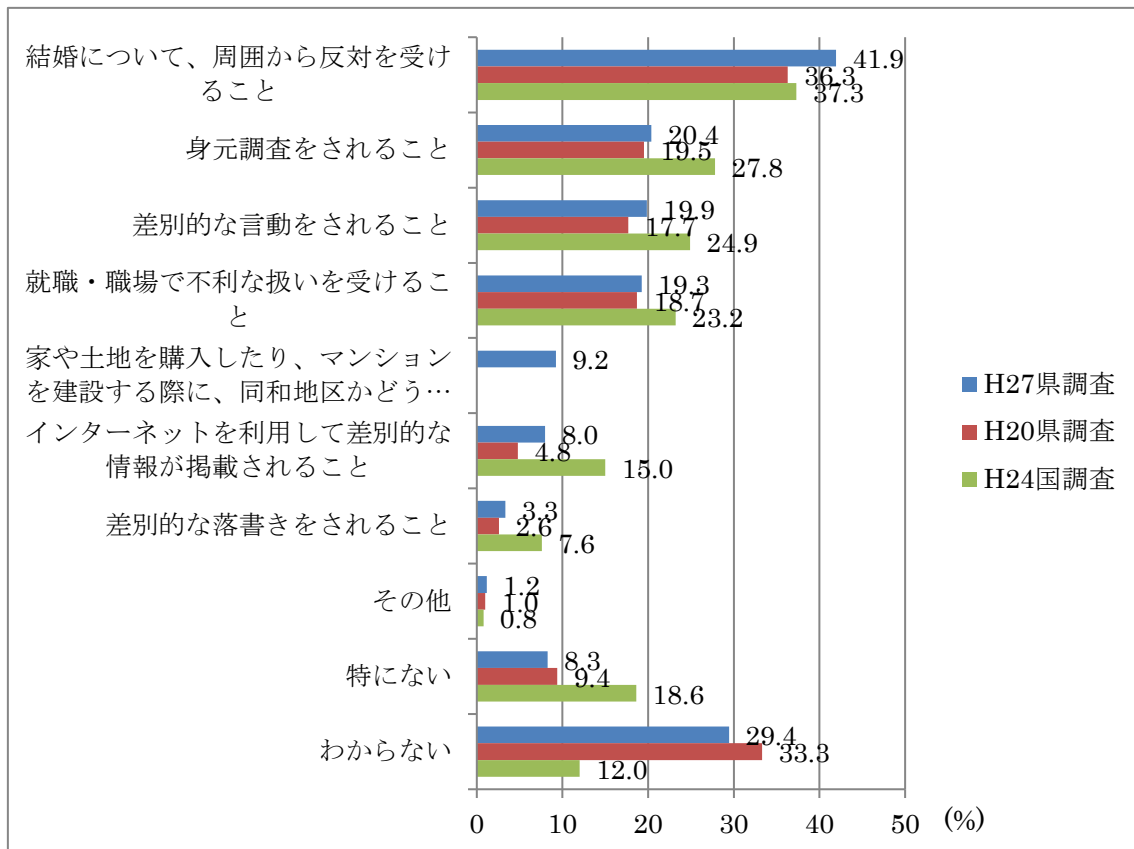
【職業別】



職業別にみると、「民間・各種団体」・「臨時」・「学生」・「無職」では、「同和問題を知らない」が、「自営業」では、「同和問題は、知っているがきっかけは覚えていない」が、「公務員」・「教員」は、「学校の授業で教わった」が最も高くなっている。

問10 同和問題に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「結婚について、周囲から反対を受けること」(41.9%)が最も高く、次いで「わからない」(29.4%)、「差別的な言動をされること」(19.9%)となっている。

H20県調査と比較すると、「結婚について、周囲から反対を受けること」(36.3%→41.9%)などは増加している。

H24国調査と比較すると、「身元調査をされること」(27.8%→20.4%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も、「結婚について、周囲から反対を受けること」が、最も高くなっている。

【地域別】

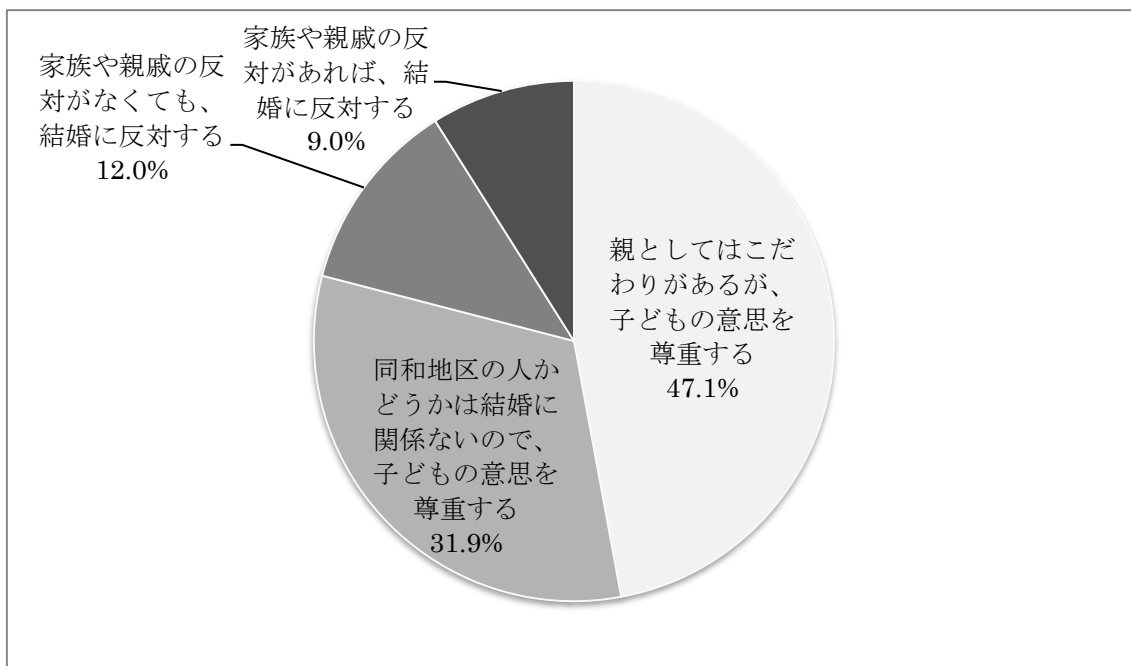
「奥越地区」では、「わからない」(35.6%)が、他の地区では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

問11(1) 【既婚の人のみ回答】

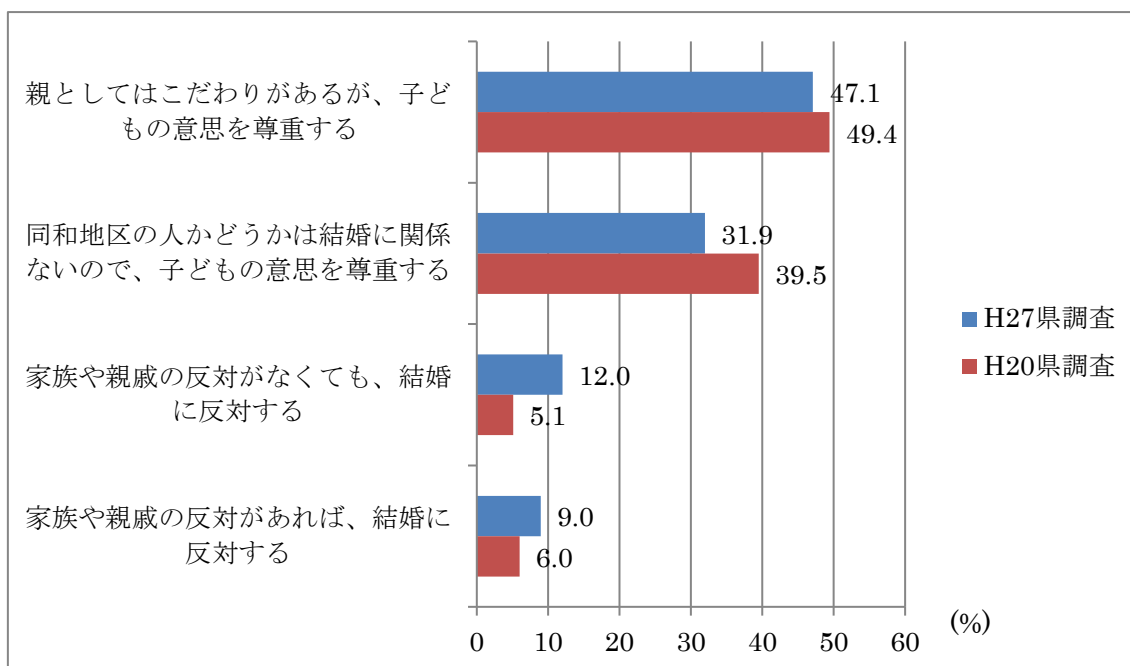
仮に、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。(1つ選択)



「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(47.1%)が最も高く、次いで「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」(31.9%)となっており、子どもの意思を尊重する割合が7割を超えている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」(12.0%)、「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する」(9.0%)および「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(47.1%)を合わせると約7割は結婚に反対やこだわりの感情を持っている。

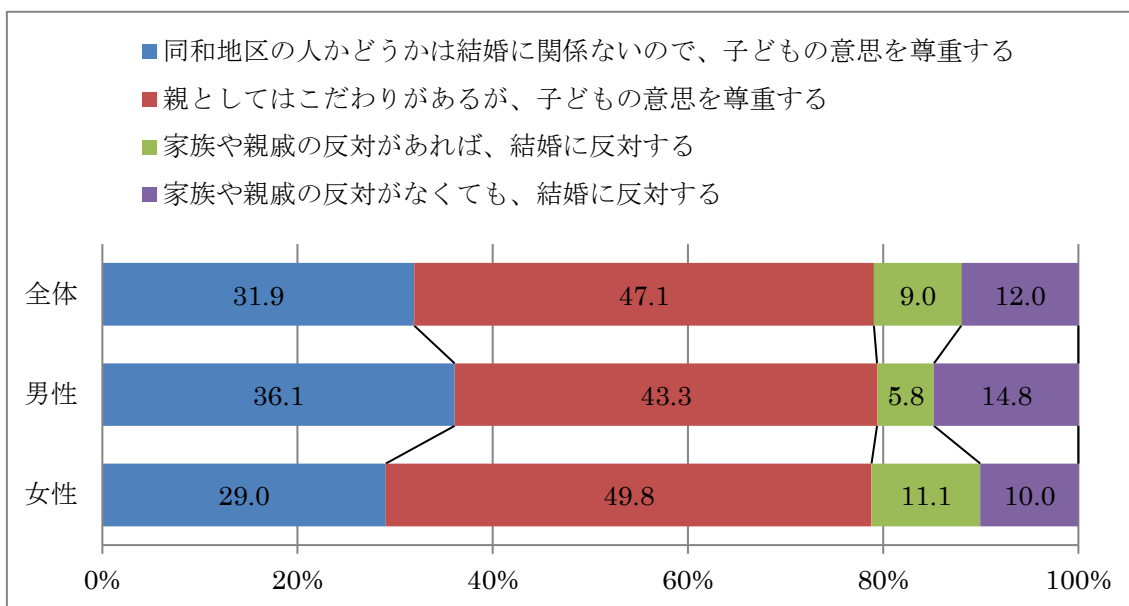
【経年比較】



H20 県調査と比較すると、「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」・「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(88.9%→79.0%)が減少している。

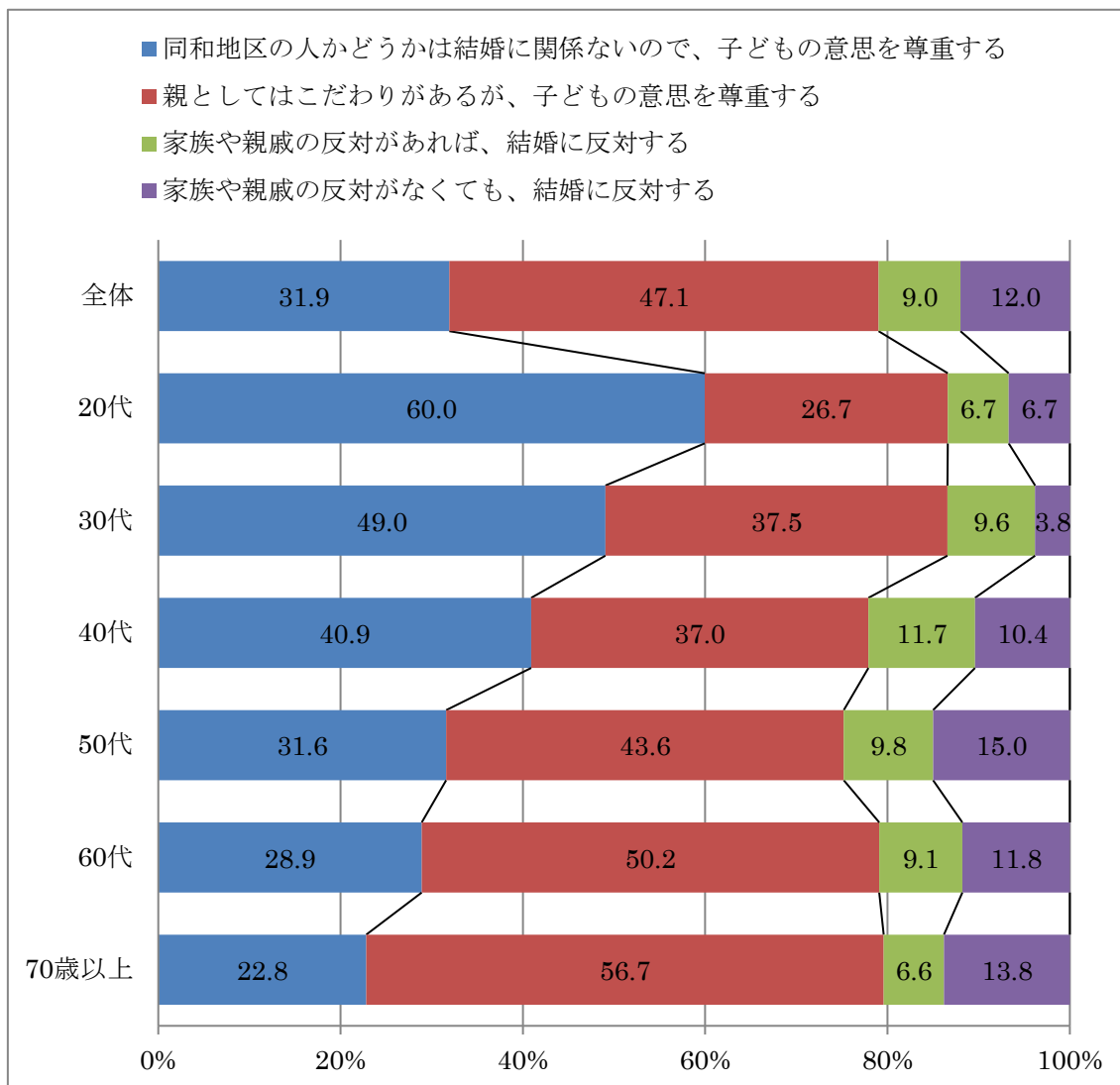
一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」・「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する」(11.1%→21.0%)が増加している。

【性別】



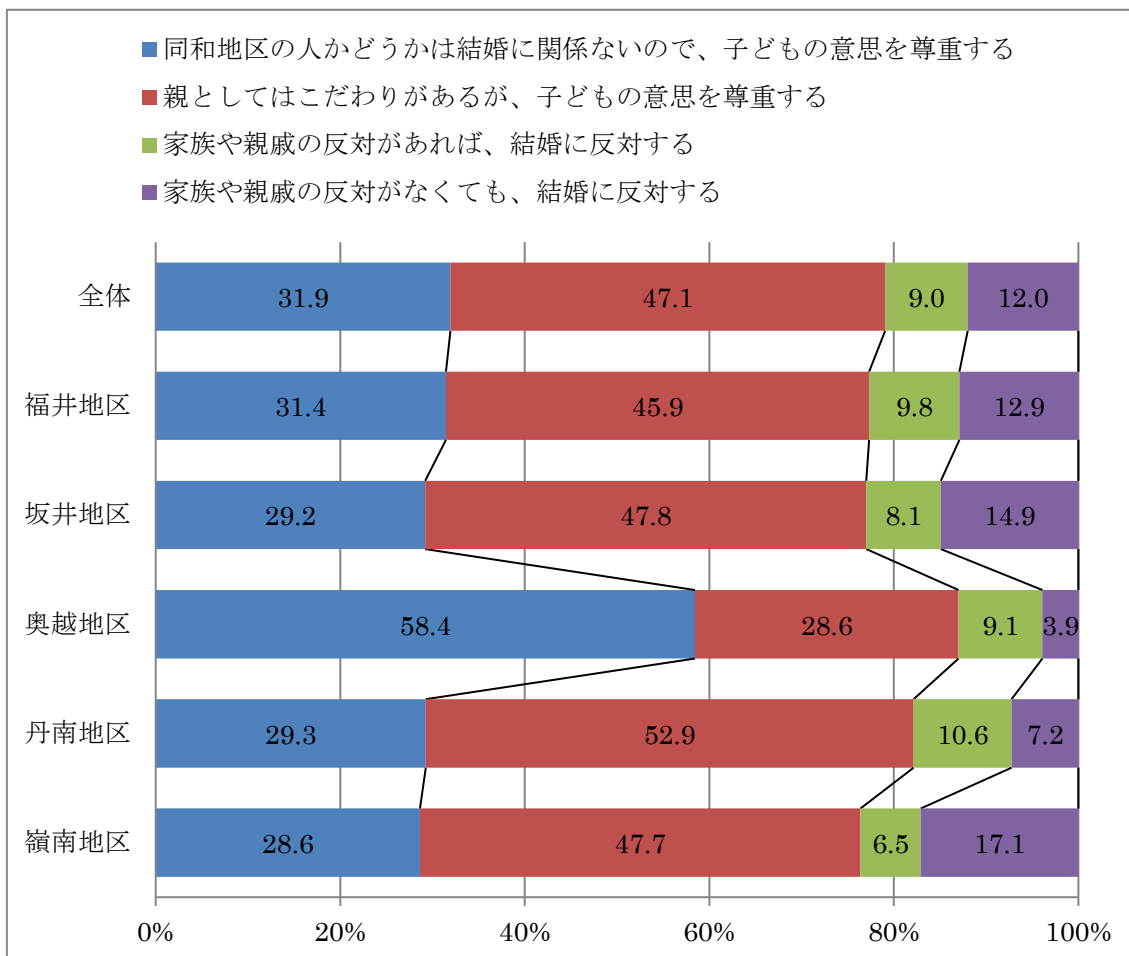
性別で見ると、「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」（男性 36.1%、女性 29.0%）が「男性」の方が高くなっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」（男性 14.8%、女性 10.0%）も「男性」の方が高くなっている。

【年齢別】



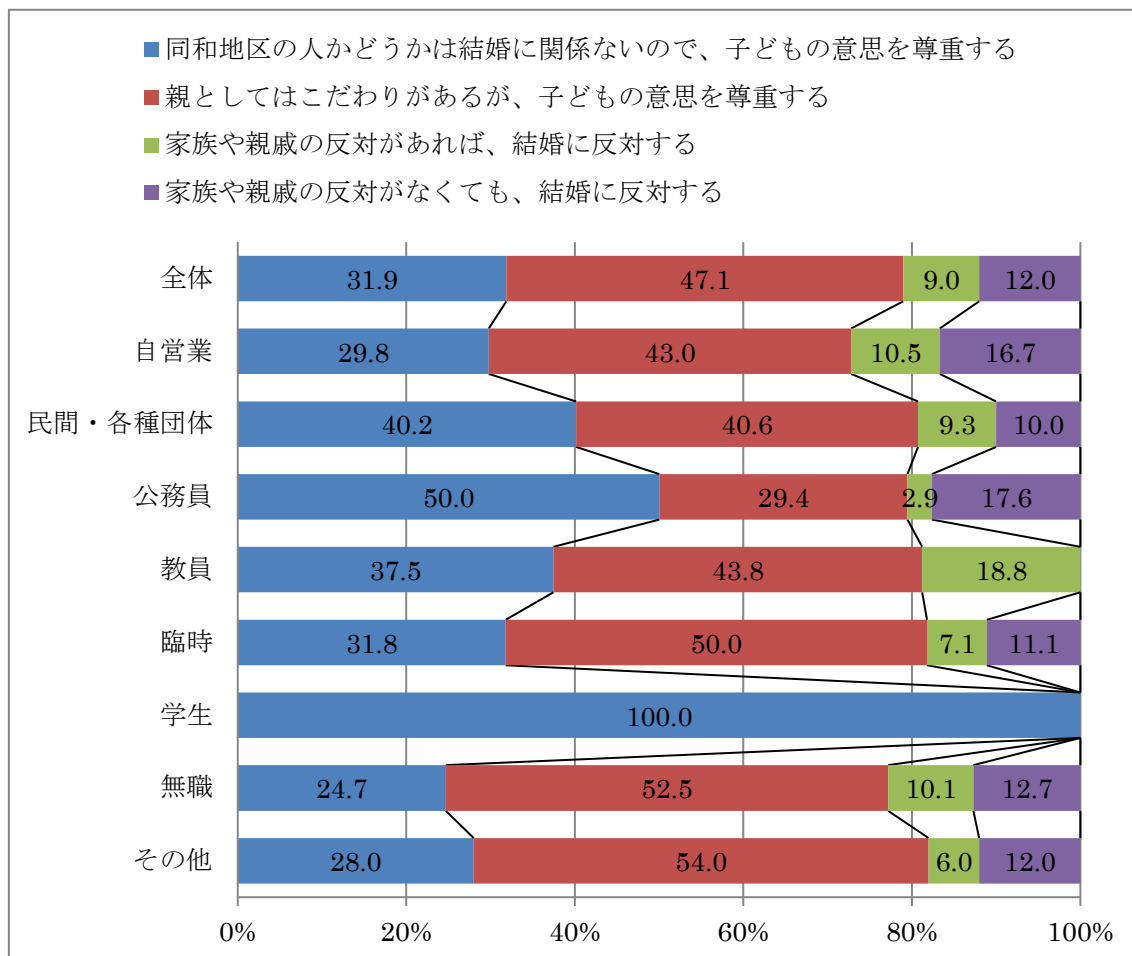
年齢別で見ると、「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、「20代」(60.0%)で最も高く、次いで「30代」(49.0%)となっており、年代が上がるにつれて低くなっている。また、「50代」(43.6%)「60代」(50.2%)「70歳以上」(56.7%)は、「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」が最も高くなっている。

【地域別】



地域別でみると、「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、「奥越地区」(58.4%)で最も高くなっており、他の地区では、30%前後となっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」は「嶺南地区」(17.1%)で最も高くなっている。

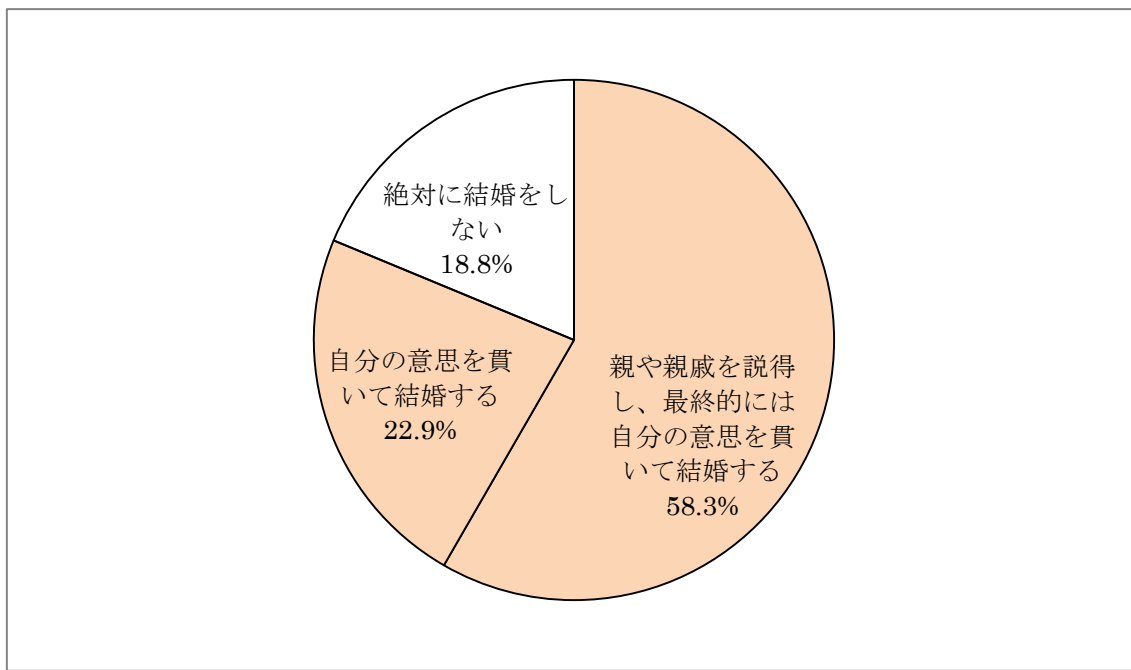
【職業別】



職業別でみると、「学生」（既婚の学生2人が回答）を除き、「同和地区の人かどうかは結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は「公務員（50.0%）」が最も高くなっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」は「公務員（17.6%）」が最も高くなっている。

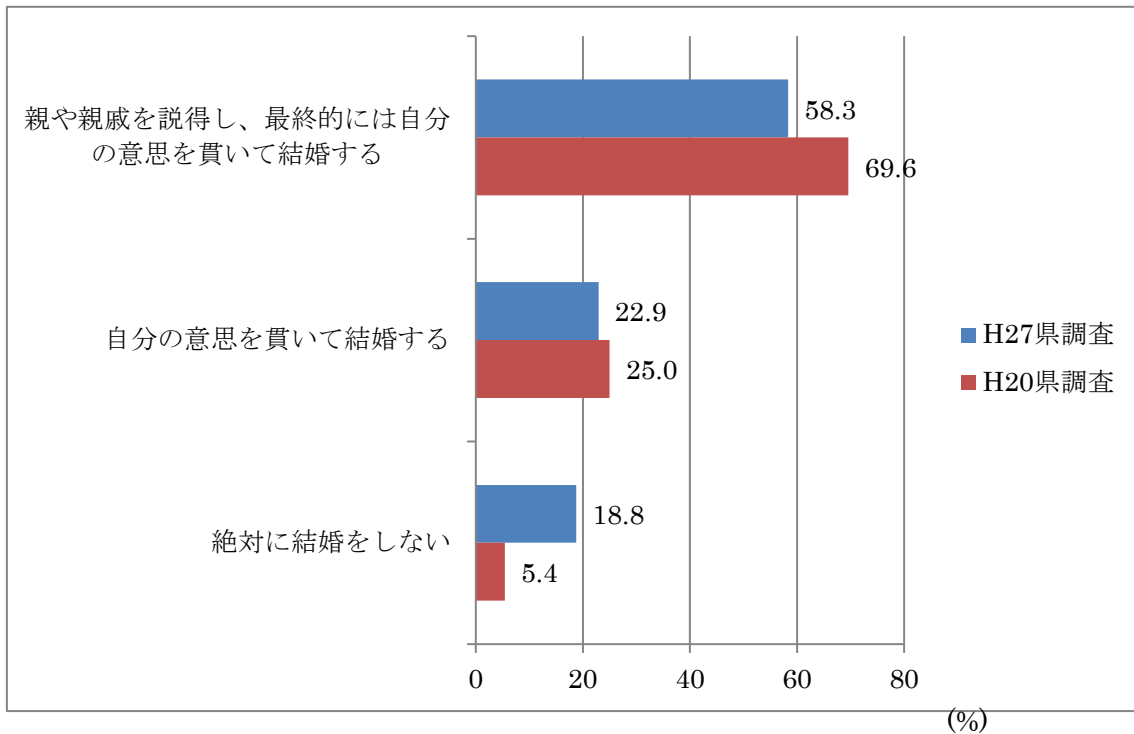
問11(2)【未婚の人のみ回答】

仮に、あなたが同和地区の人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどのようにしますか。(1つ選択)



「自分の意思を貫いて結婚する」(22.9%)・「親や親戚を説得し、最終的には自分の意思を貫いて結婚する」(58.3%)をあわせると、8割以上となっている。

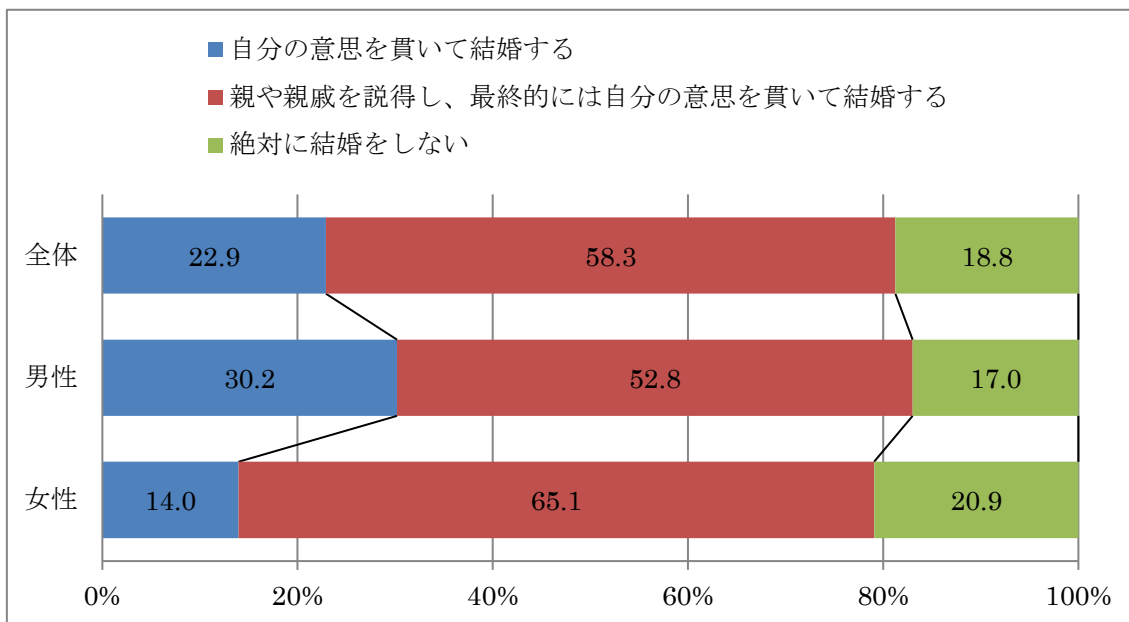
【経年比較】



H20県調査と比較すると、「自分の意思を貫いて結婚する」・「親や親戚を説得し、最終的には自分の意思を貫いて結婚する」(94.6%→81.2%)は減少している。

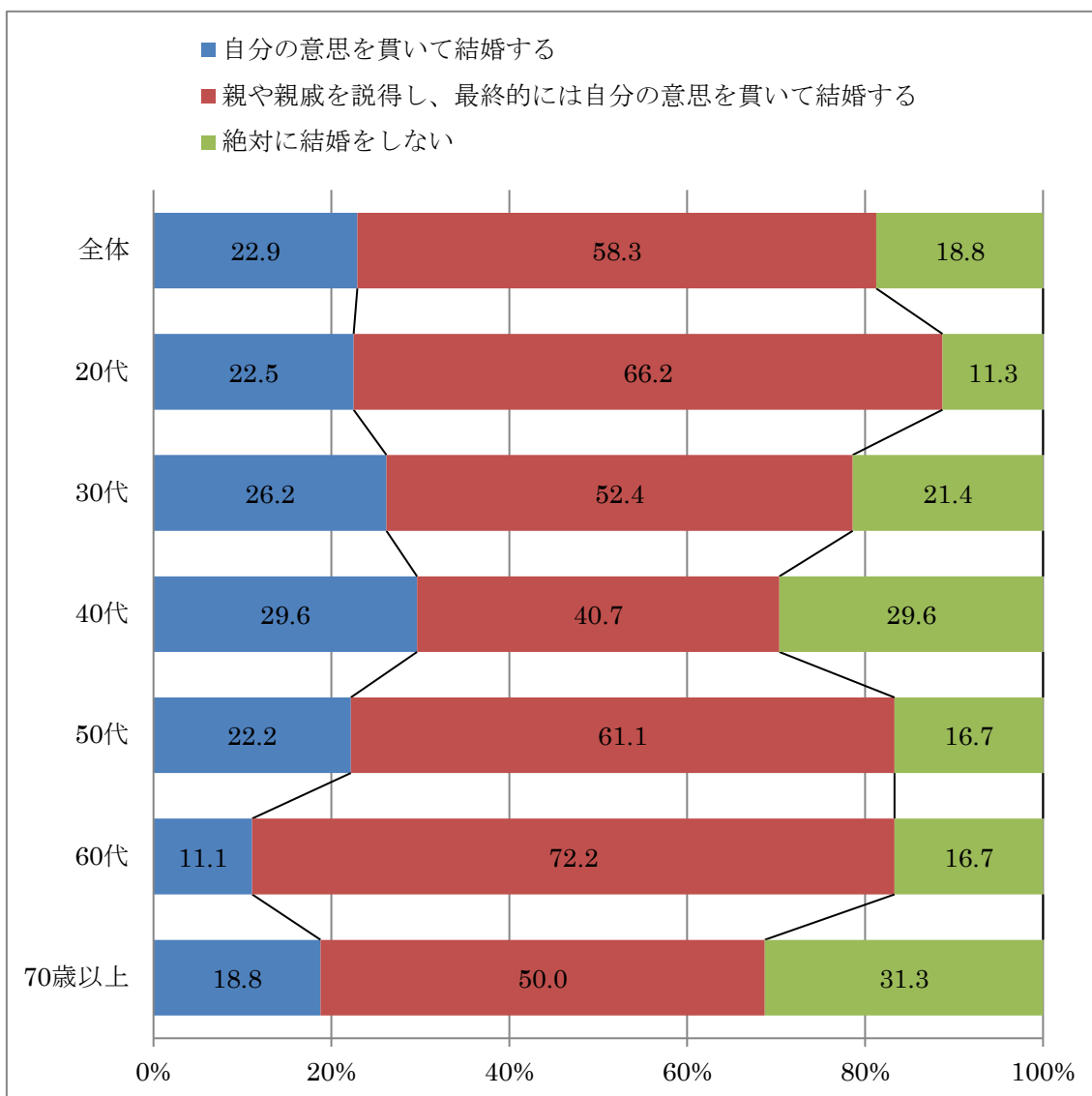
一方、「絶対に結婚しない」(5.4%→18.8%)は増加している。

【性別】



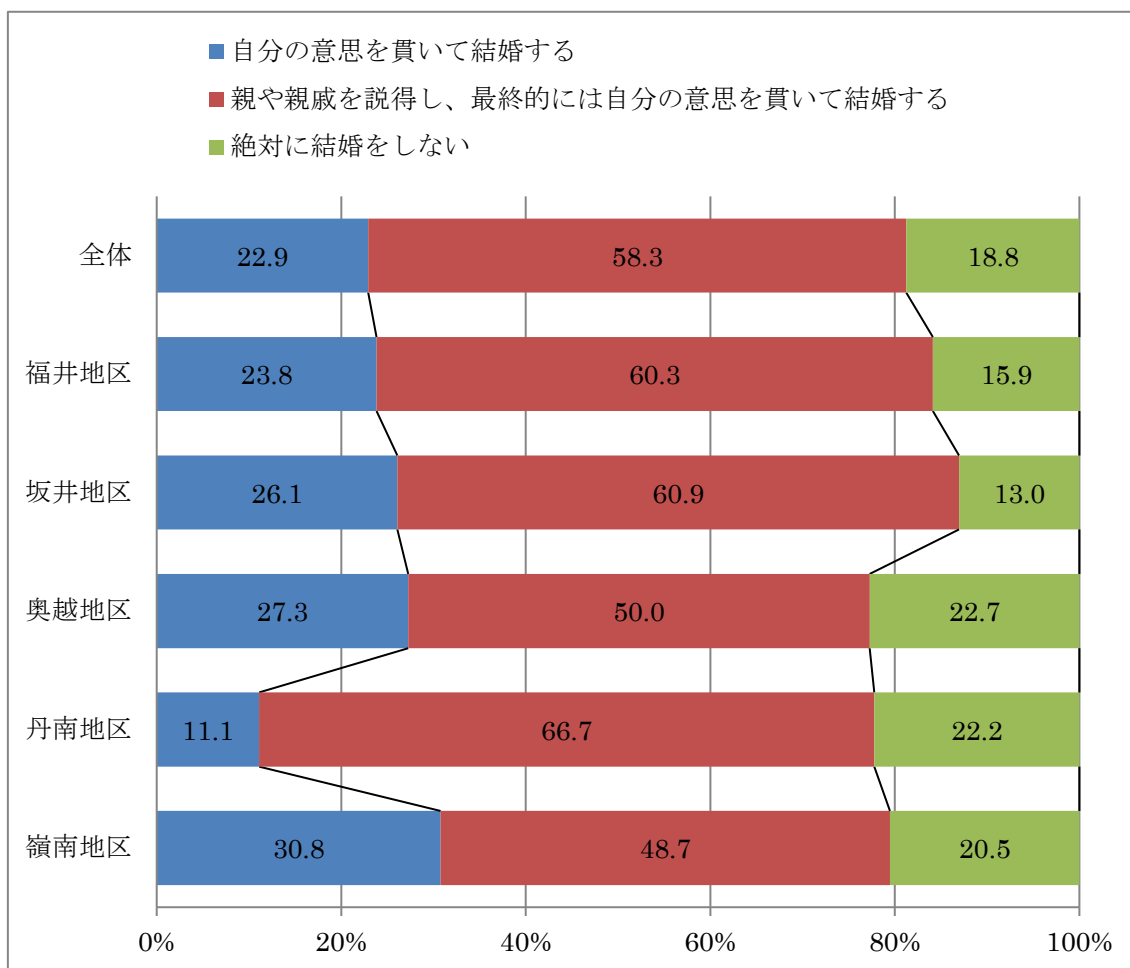
性別で見ると、「自分の意思を貫いて結婚する」（男性 30.2%、女性 14.0%）は「男性」の方が高くなっている。

【年齢別】



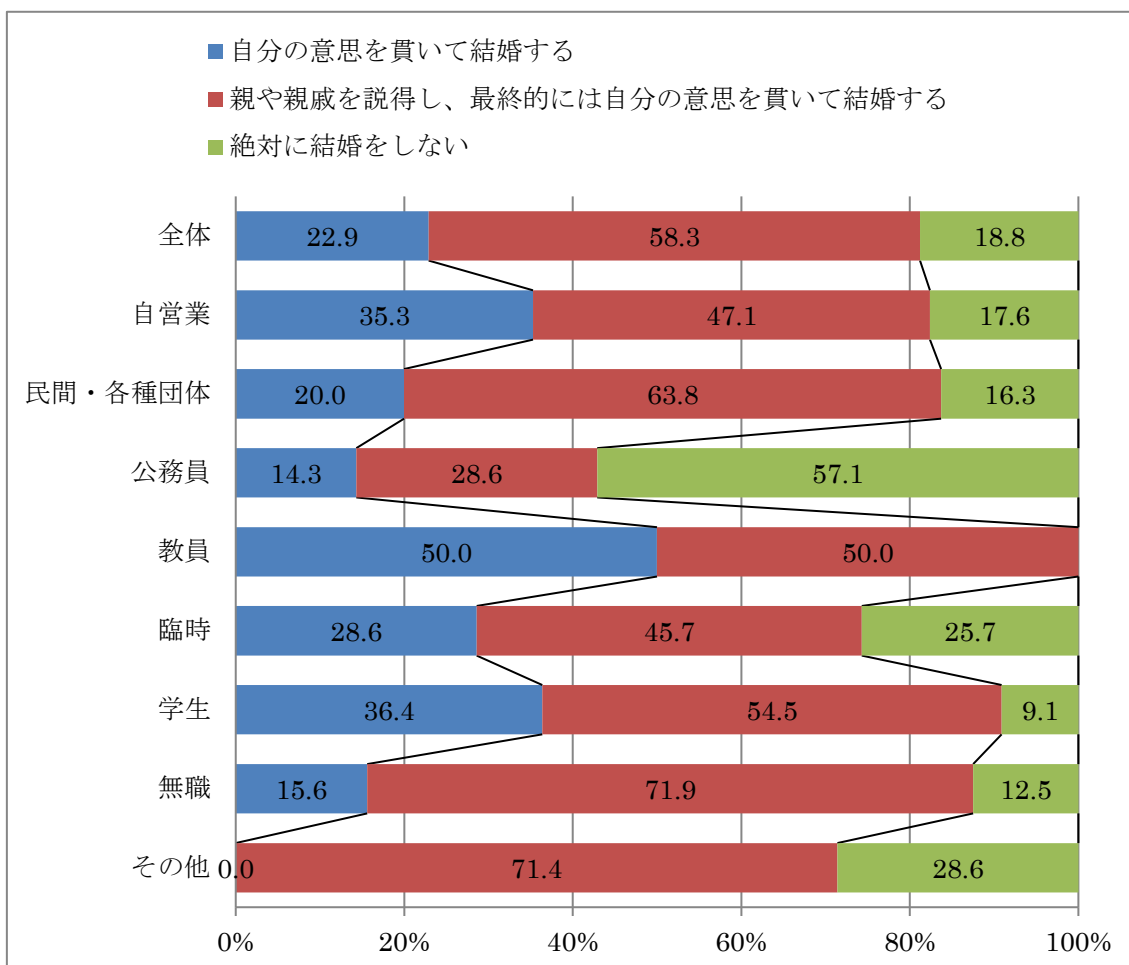
年齢別でみると、「自分の意思を貫いて結婚する」・「親や親戚を説得し、最終的には自分の意思を貫いて結婚する」は、「20代」(88.7%)で最も高く、次いで「50代」(83.3%)、「60代」(83.3%)となっている。一方、「絶対に結婚しない」は、「70歳以上」(31.3%)で最も高く、次いで「40代」(29.6%)となっている。

【地域別】



地域別でみると、「自分の意思を貫いて結婚する」・「親や親戚を説得し、最終的には自分の意思を貫いて結婚する」は、「坂井地区」(87.0%)で最も高く、「奥越地区」(77.3%)で最も低くなっている。

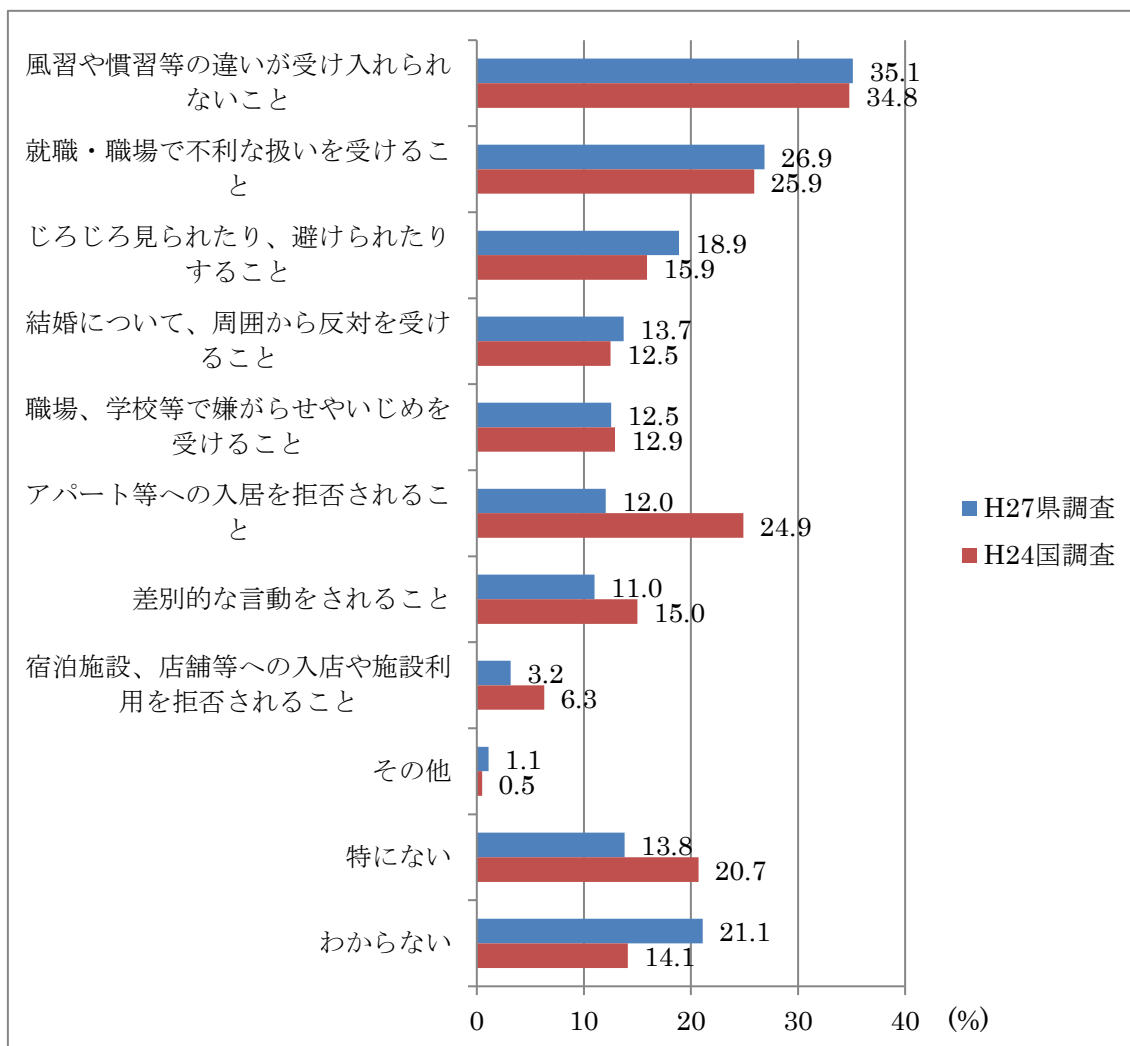
【職業別】



職業別でみると、「自分の意思を貫いて結婚する」・「親や親戚を説得し、最終的には自分の意思を貫いて結婚する」は、「教員」（100%、回答者2人）で最も高く、一方、「絶対に結婚しない」は、「公務員」（57.1%、回答者4人）で最も高くなっている。

問12 日本に居住している外国人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」(35.1%)が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」(26.9%)、「わからない」(21.1%)となっている。

H24国調査と比較すると、「アパート等への入居を拒否されること」(24.9%→12.0%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

「70歳以上」以外の年代では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」となっている。

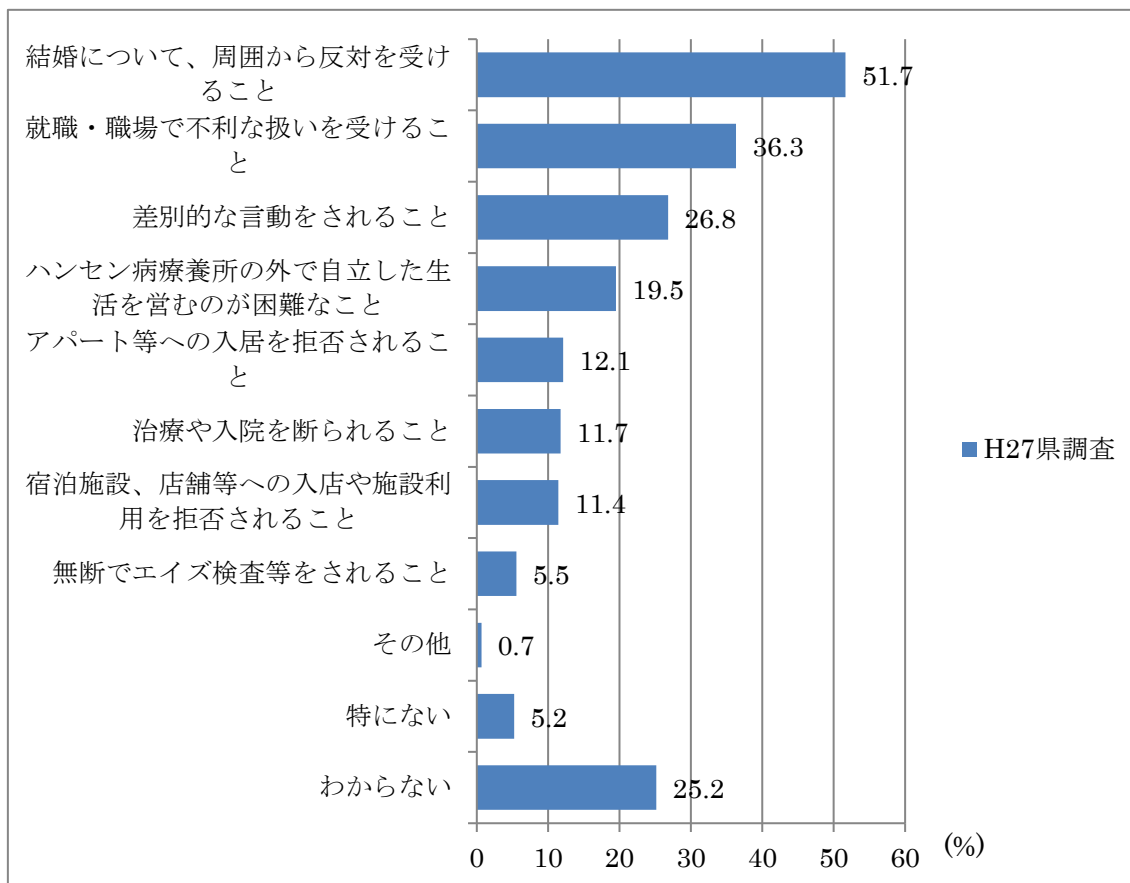
【地域別】

どの地区も「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」となっている。

【職業別】

どの職業も「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」が最も高くなっている。

問 1 3 感染症患者やその家族に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「結婚について、周囲から反対を受けること」(51.7%)が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」(36.3%)、「差別的な言動をされること」(26.8%)となっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【地域別】

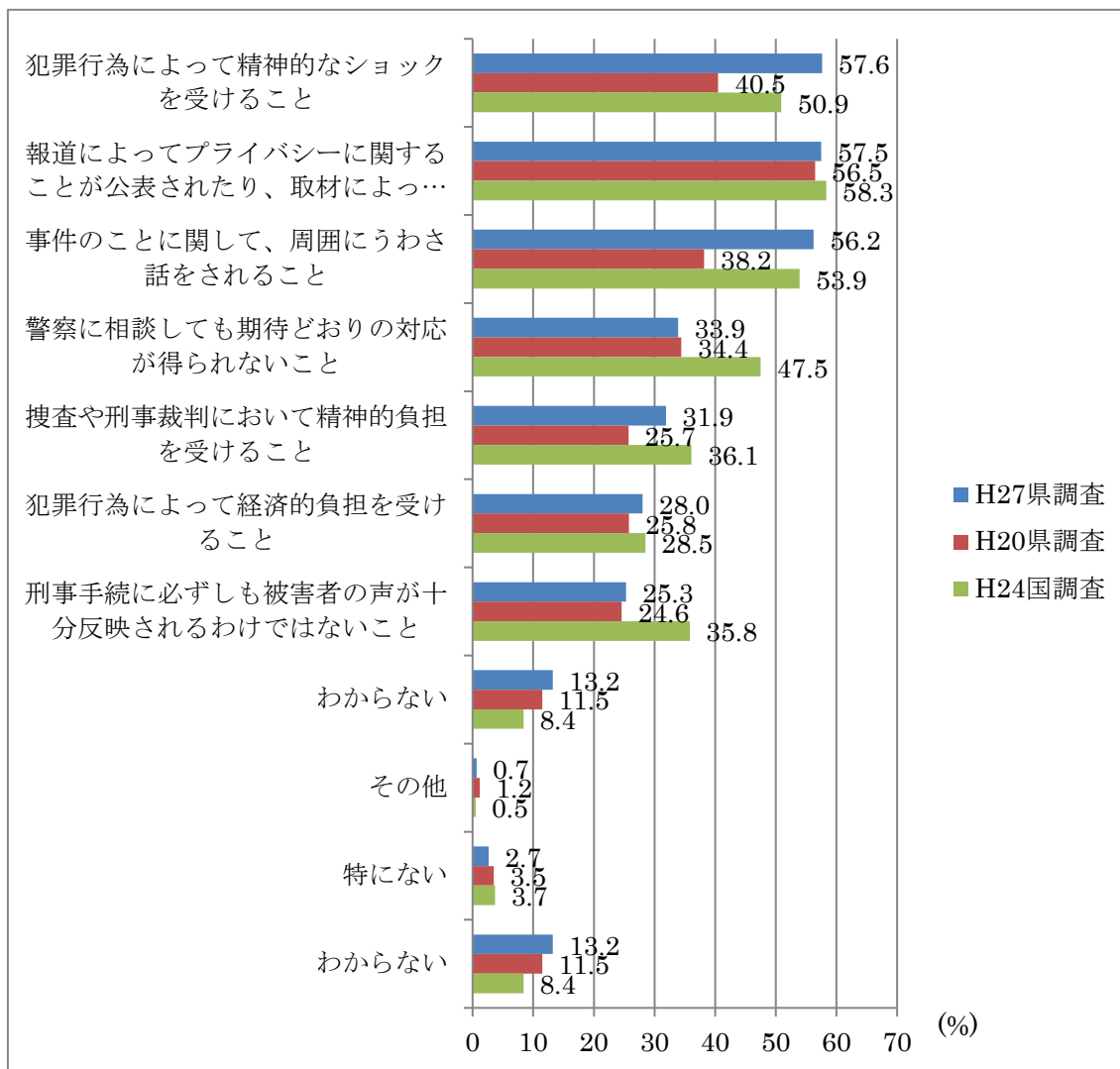
どの地区も「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」となっている。

【職業別】

どの職業も「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

問14 犯罪被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(57.6%)が最も高く、次いで「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」(57.5%)、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」(56.2%)となっている。

H20県調査と比較すると、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」(38.2%→56.2%)などは増加している。

H24国調査と比較すると、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(50.9%→57.6%)などは高くなっており、「警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと」

(47.5%→33.9%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」(男性51.2%、女性62.7%)、で大きな差がみられる。

【年齢別】

「20代」(66.3%)・「60代」(60.8%)では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が、「20代」(66.3%)・「40代」(74.9%)・「60代」(60.8%)では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が、「30代」(74.0%)・「50代」(67.9%)・「70歳以上」(39.8%)では、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が、最も高くなっている。

【地域別】

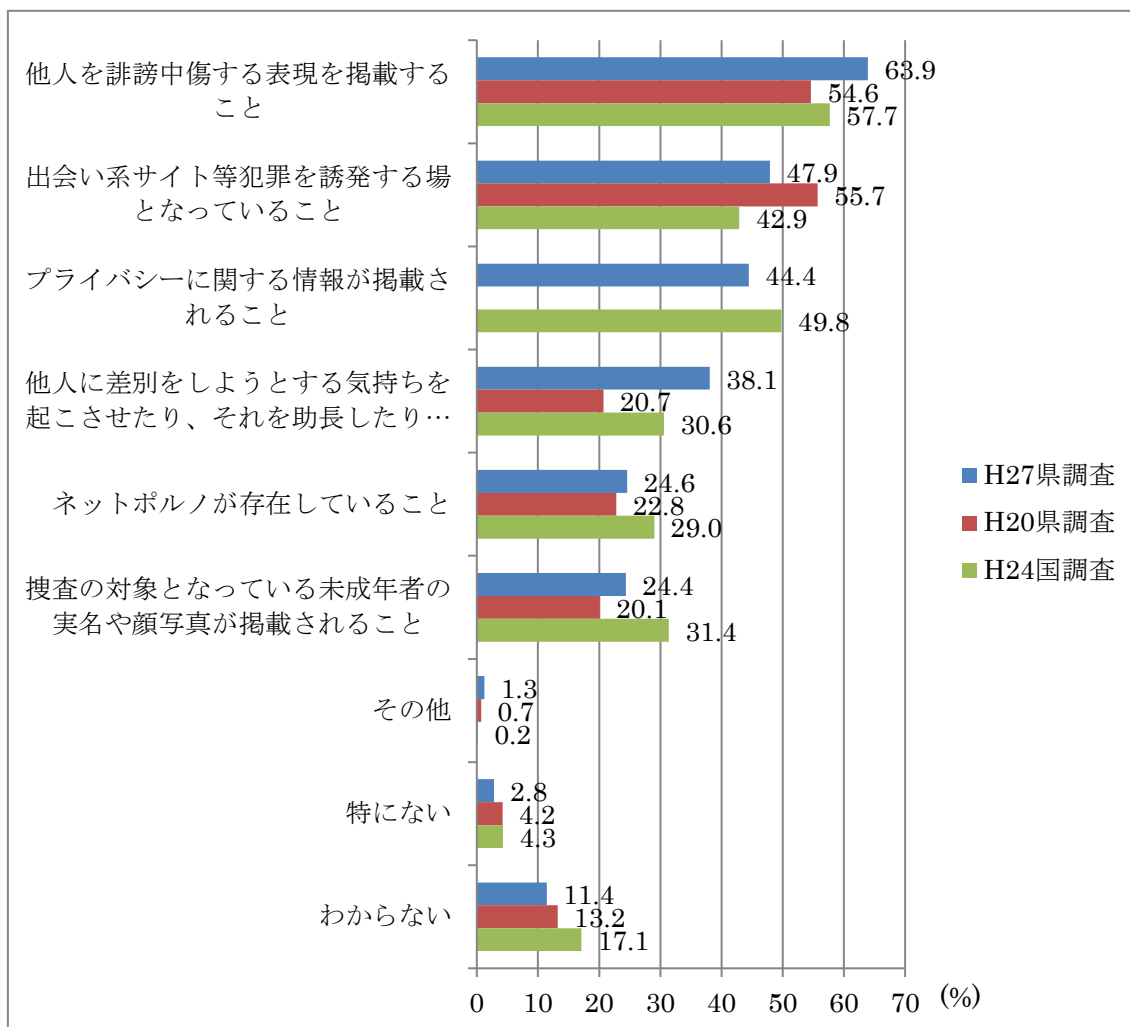
「福井地区」・「坂井地区」では、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が、「奥越地区」・「丹南地区」では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が、「嶺南地区」では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高くなっている。

【職業別】

「民間・各種団体」・「公務員」・「教員」・「無職」では、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が、「自営業」・「学生」では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が、「臨時」では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も高くなっている。

問15 インターネットによる人権侵害に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」(63.9%)が最も高く、次いで「出会い系サイト犯罪を誘発する場となっていること」(47.9%)、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(44.4%)となっている。

H20県調査と比較すると、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」(20.7%→38.1%)などは増加しており、「出会い系サイト犯罪を誘発する場となっていること」(55.7%→47.9%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」(30.6%→38.1%)などは高くなっており、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」(31.4%→24.4%)などは低

くなっている。

【性別】

男女では、「出会い系サイト犯罪を誘発する場となっていること」(男性43.1%、女性53.8%)で大きな差がみられる。

【年齢別】

「20代」から「60代」まででは、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が、「70歳以上」では、「出会い系サイト犯罪を誘発する場となっていること」が最も高くなっている。

【地域別】

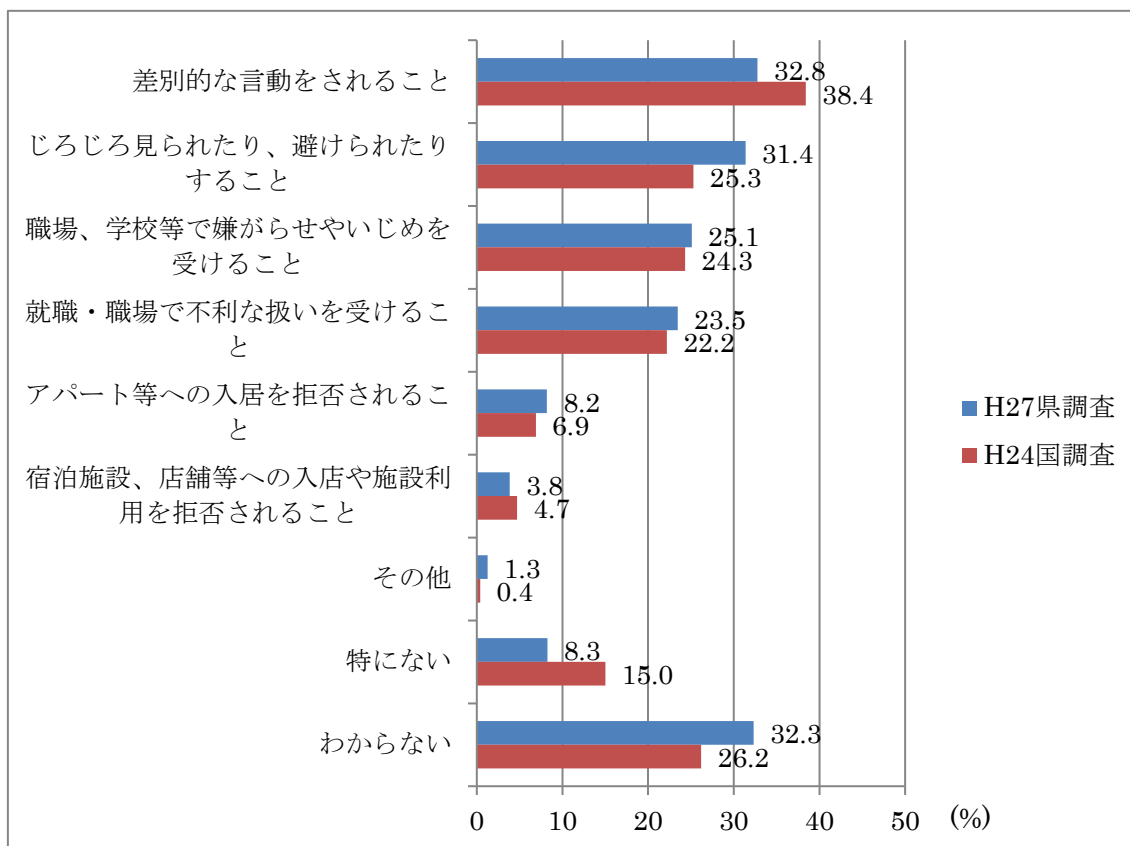
どの地区も「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が最も高くなっている。

問16 同性愛、両性愛といった性的指向に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「差別的な言動をされること」(32.8%)が最も高く、次いで「わからない」(32.3%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(31.4%)となっている。

H24国調査と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(25.3%→31.4%)などのは、高くなっており、「差別的な言動をされること」(38.4%→32.8%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

「20代」から「50代」まででは、「差別的な言動をされること」が、「60代」では、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が、「70歳以上」では、「わからない」が最も高くなっている。

【地域別】

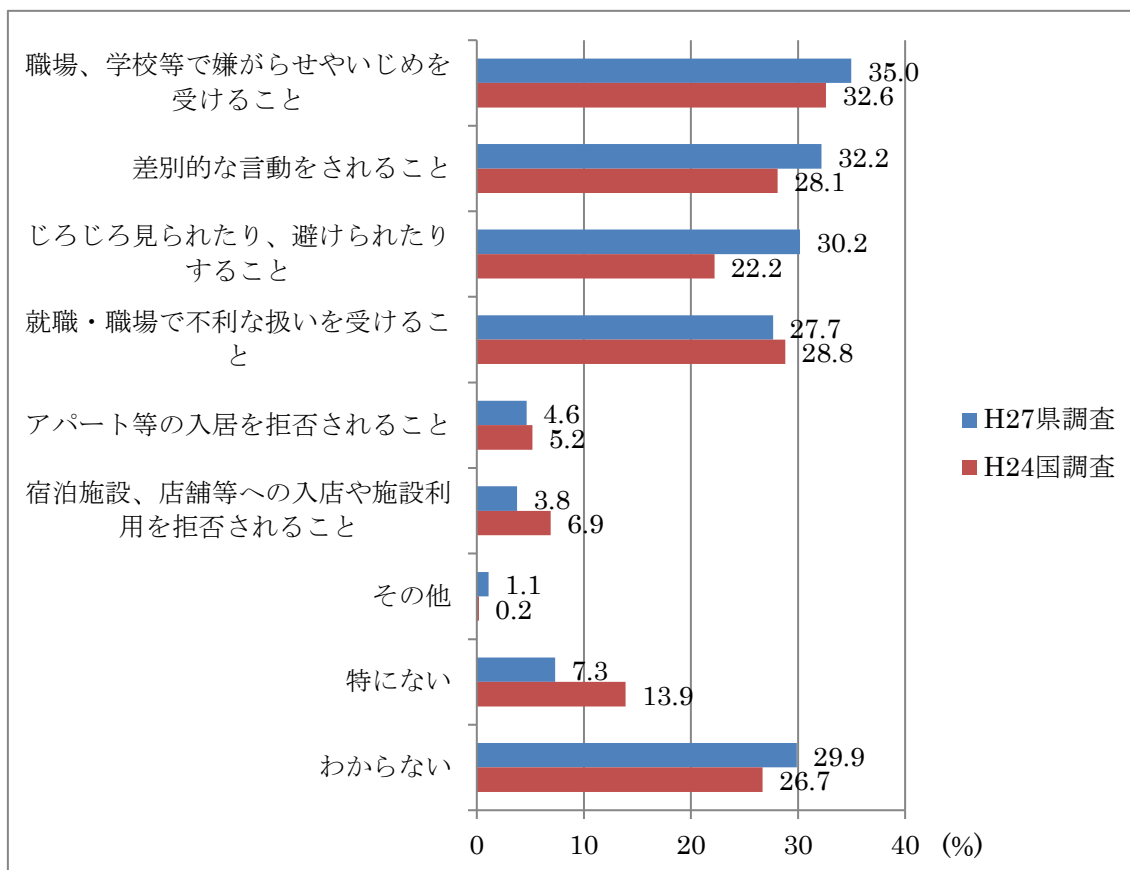
「福井地区」・「奥越地区」では、「差別的な言動をされること」が、「嶺南地区」では、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が、「坂井地区」、「丹南地区」では、「わからない」が最も高くなっている。

【職業別】

「民間・各種団体」・「公務員」・「臨時」・「学生」では、「差別的な言動をされること」が、「自営業」・「無職」では、「わからない」が、「教員」では、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が最も高くなっている。

問17 からだの性とところの性が一致しない性同一性障害者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(35.0%)が最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(32.2%)、「じろじろ見られたり、避けられたりする」(30.2%)となっている。

H24国調査と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりする」(22.2%→30.2%)などは高くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

「20代」から「50代」まででは、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が、「60代」では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が、「70歳以上」では、「わ

からない」が最も高くなっている。

【地域別】

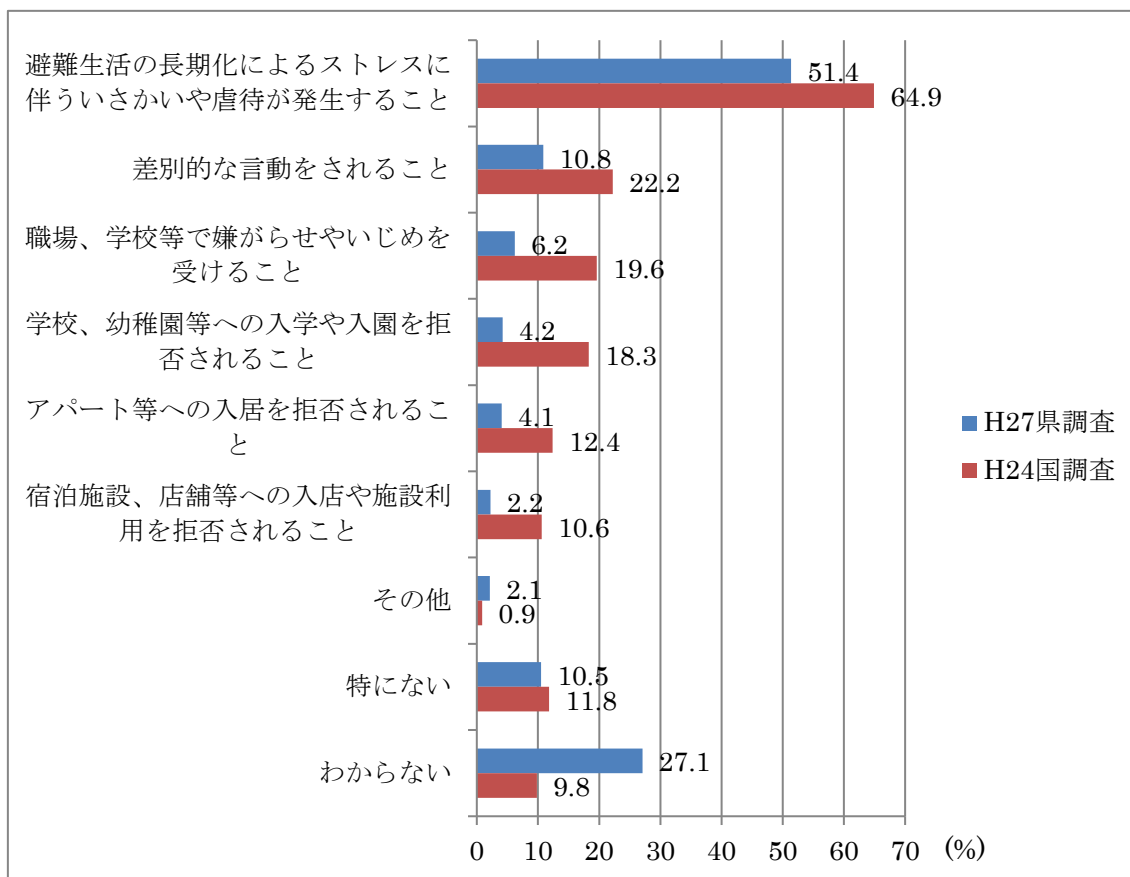
「福井地区」では、「差別的な言動をされること」が、他の地区では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

「民間・各種団体」・「公務員」・「教員」・「学生」では、「差別的な言動をされること」が、「臨時」では、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が、「自営業」、「無職」では、「わからない」が最も高くなっている。

問18 被災者の人権問題に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」(51.4%)が最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(10.8%)となっている。

H24国調査と比較すると、「学校、幼稚園等への入学や入園を拒否されること」(18.3%→4.2%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」が最も高くなっている。

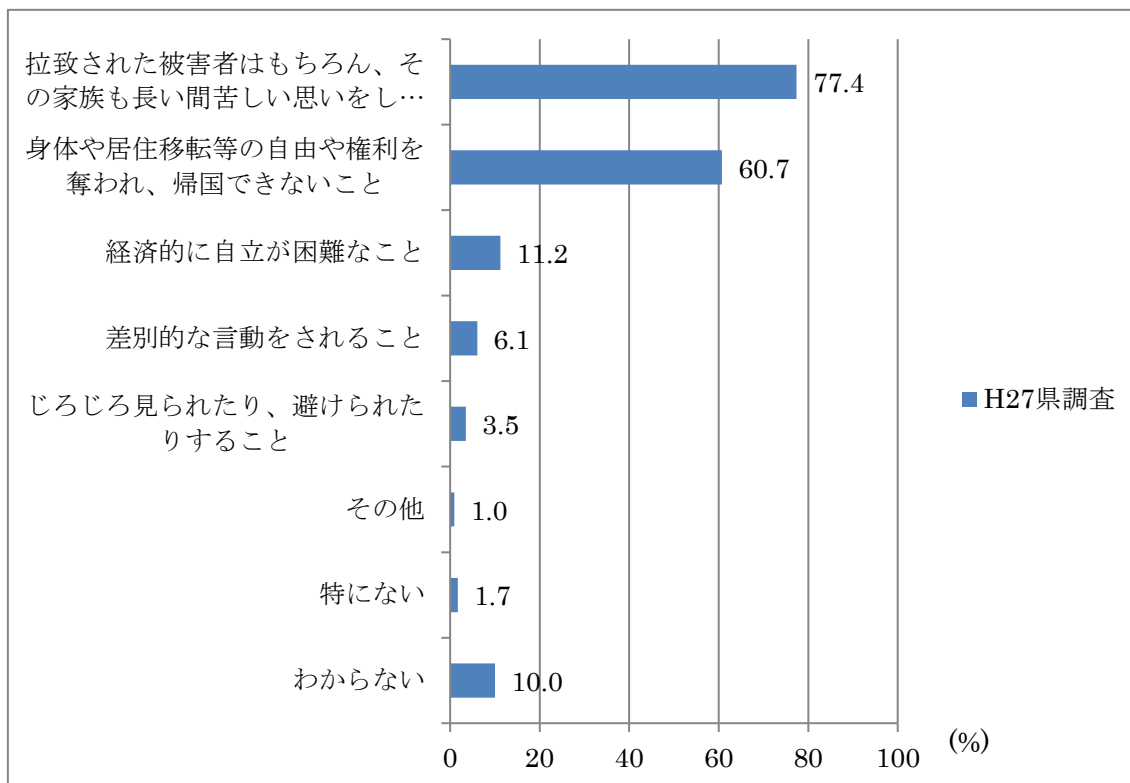
【地域別】

どの地区も「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」が最も高くなっている。

問19 北朝鮮当局によって拉致された被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」(77.4%)が最も高く、次いで「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと」(60.7%)、「経済的に自立が困難なこと」(11.2%)となっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高く、次いで「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと」となっている。

【地域別】

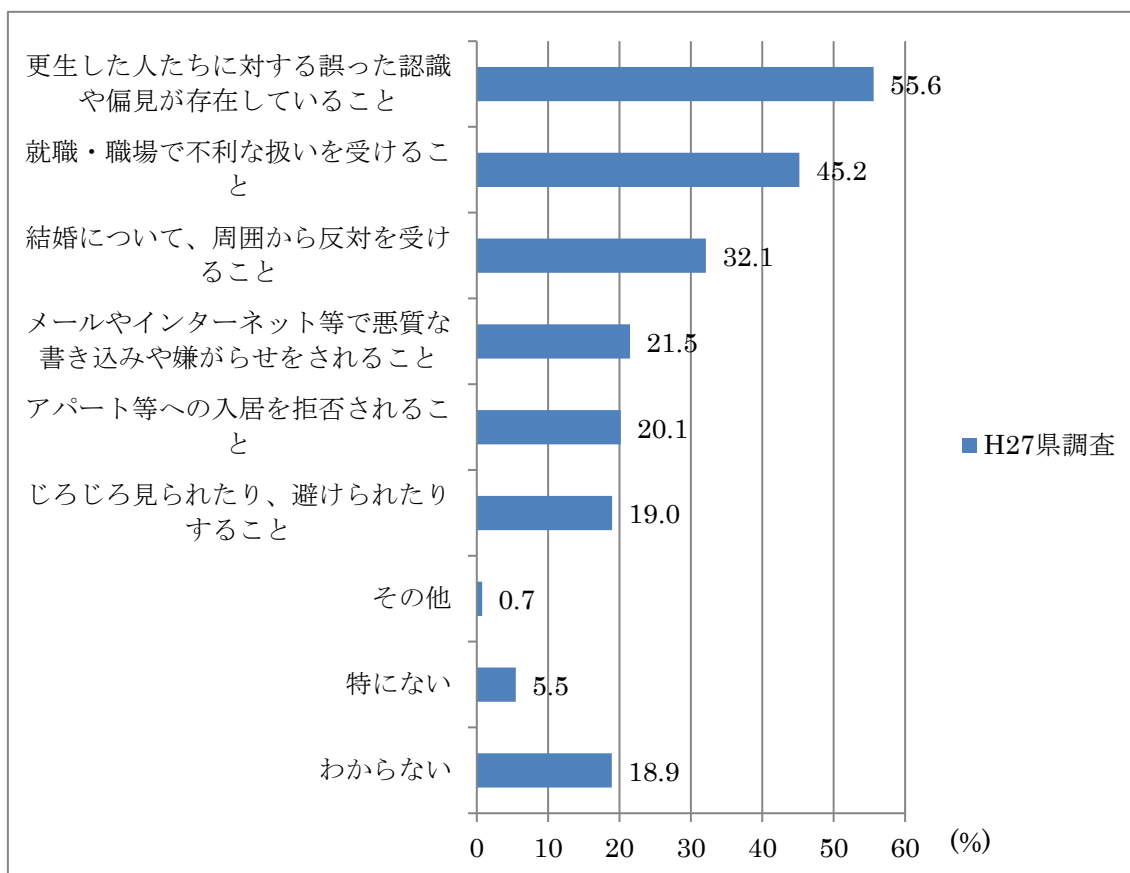
どの地区も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしているこ

と」が最も高く、次いで「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと」となっている。

【職業別】

どの職業も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高く、次いで「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと」となっている。

問20 刑を終えて出所した人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」(55.6%)が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」(45.2%)、「結婚について、周囲から反対を受けること」(32.1%)となっている。

【性別】

男女では、「メールやインターネット等で悪質な書き込みや嫌がらせをされること」(男性 16.0%、女性 26.6%)で大きな差がみられる。

【年齢別】

どの年代も「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」となっている。

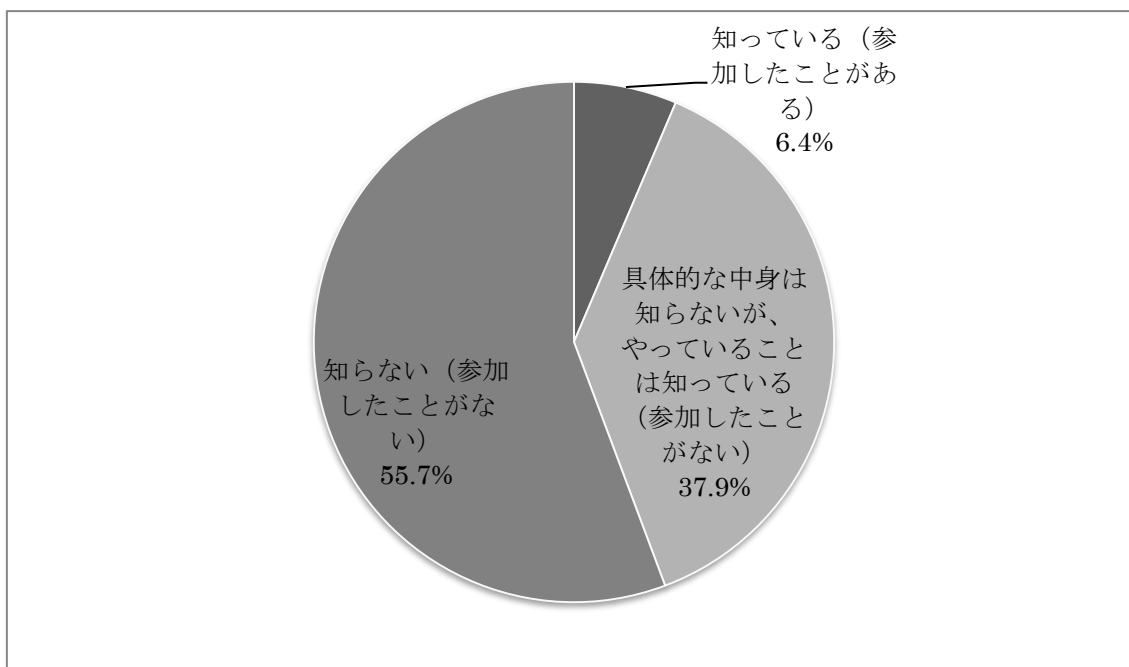
【地域別】

どの地区も「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」となっている。

【職業別】

「教員」は、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が、他の職業では、「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高くなっている。

問2 1 県・市町では、人権に関する取組みとして、下記のような啓発活動を行っておりますが、あなたは、このような人権に関する啓発活動を知っていますか、または、啓発活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

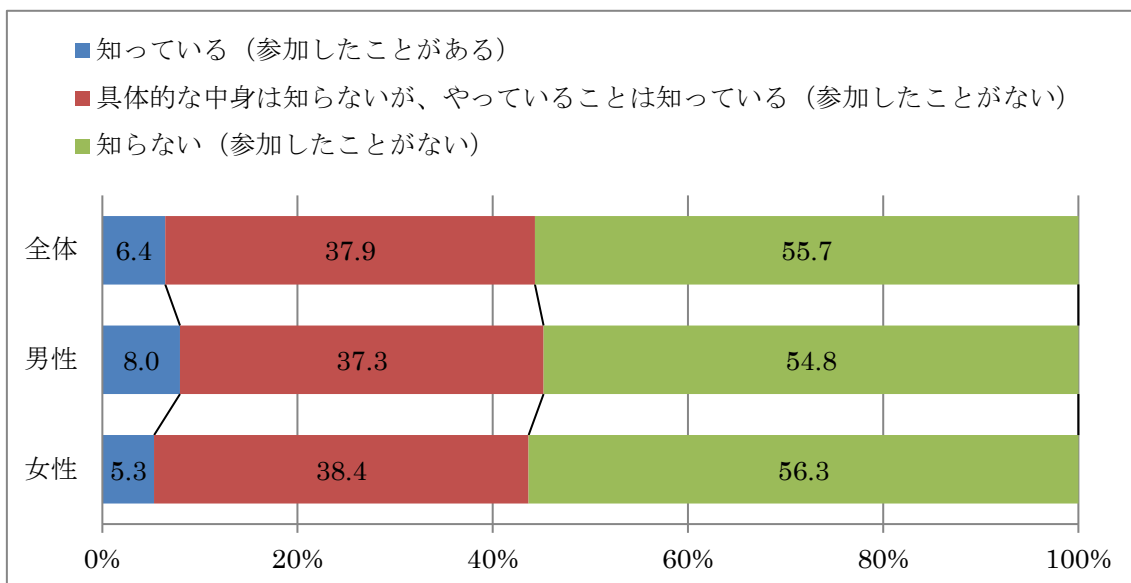


「知っている (参加したことがある)」・「具体的な中身は知らないが、やっていることは知っている (参加したことがない)」(44.3%) は、4割となっている。

【平成26年度啓発活動例】

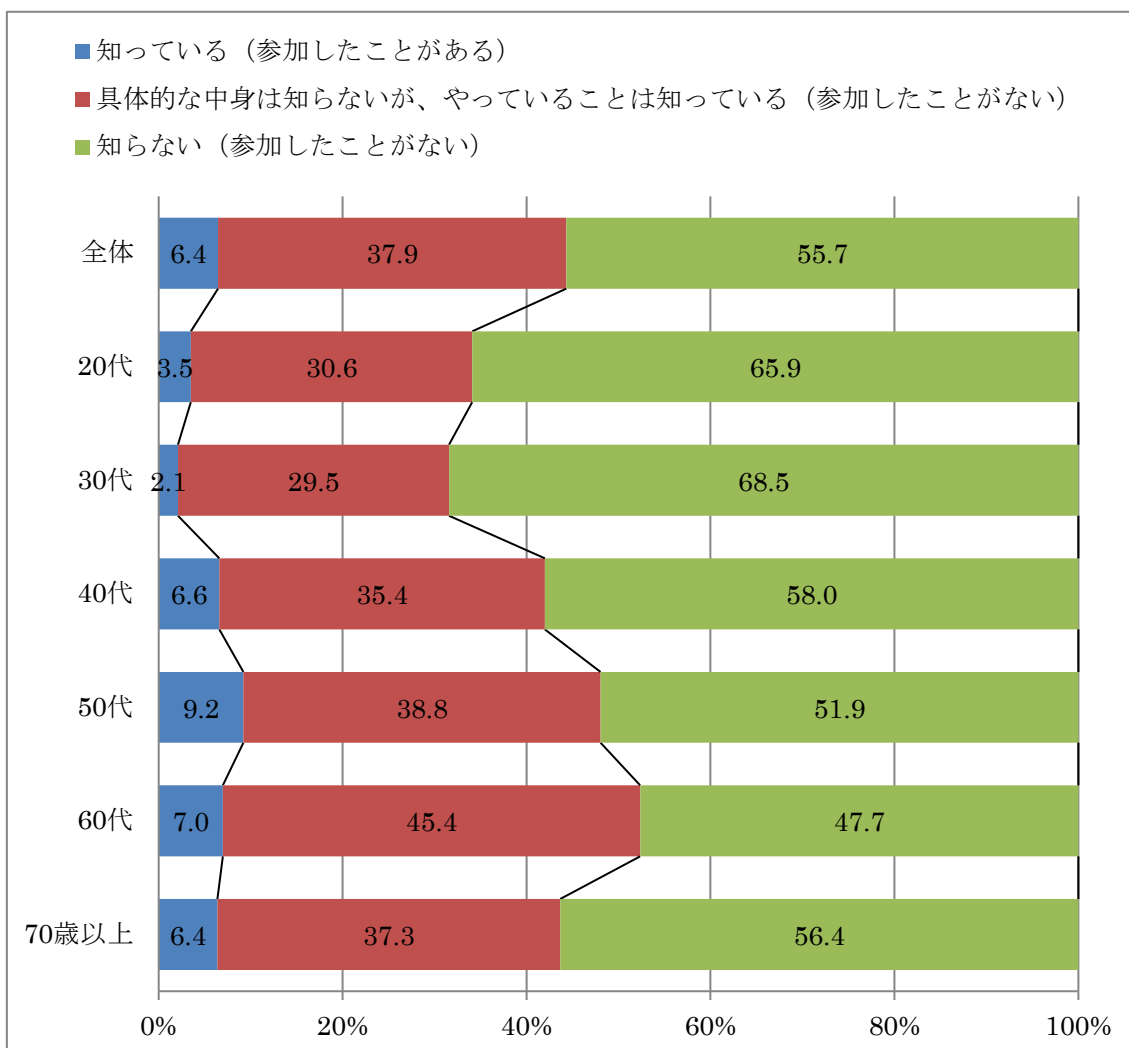
- ・ 児童虐待防止や男女共同参画などに関する講演会
- ・ 子どもも楽しめるような要素を取り入れたイベントである人権フェスティバル
- ・ サッカー (サウルコス福井) や野球 (福井ミラクルエレファント) と連携したいじめ防止の啓発活動
- ・ 花の苗の植栽を通して、命の大切さを教える「人権の花運動」
- ・ 拉致問題に関する講演会、北朝鮮人権侵害問題啓発週間における街頭啓発
- ・ 福井県人権センターによる人権啓発DVD貸出、出張出前講座
- ・ 人権イメージキャラクター (人KENまもる君、人KENあゆみちゃん) による街頭啓発活動
- ・ 男女共同参画に関する標語コンクール・作文などの実施

【性別】



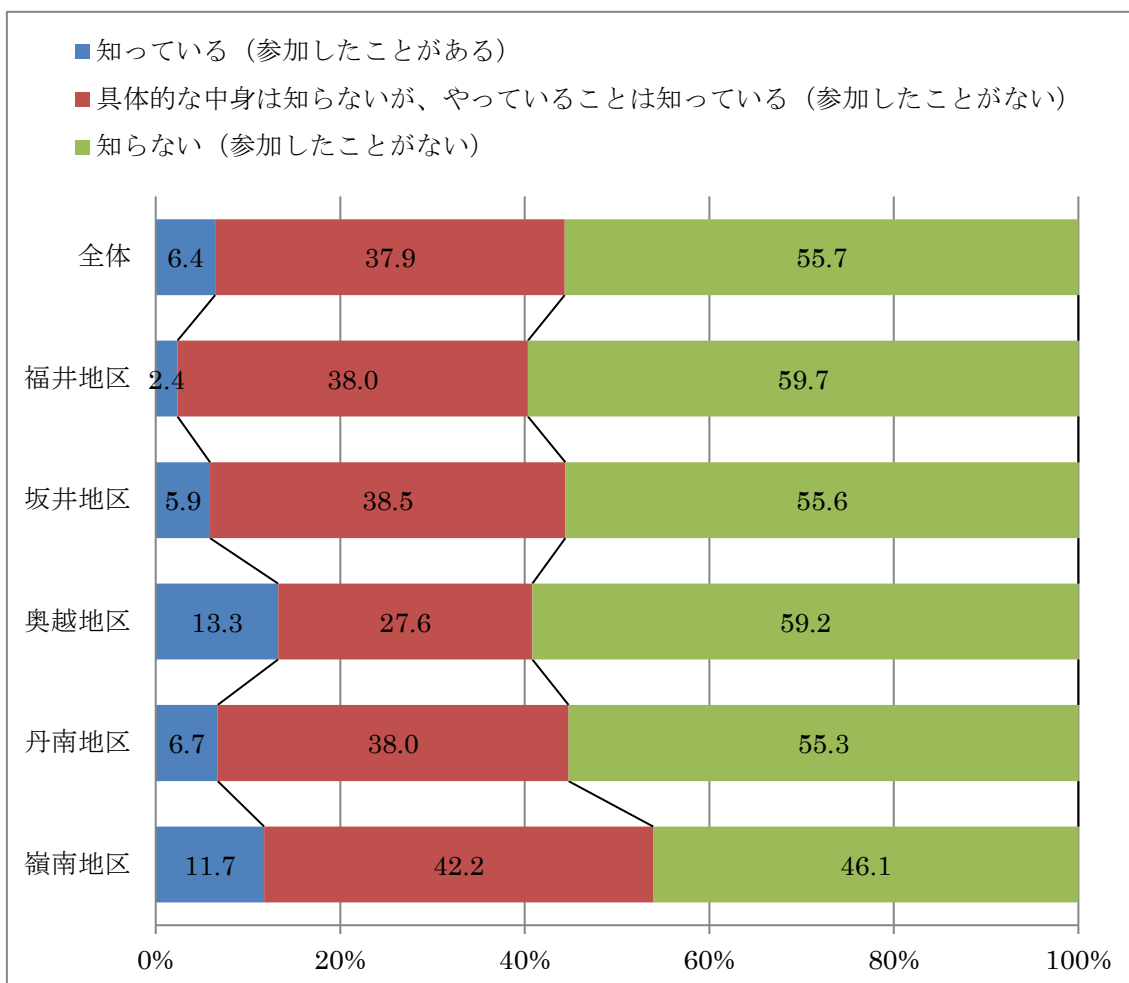
男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】



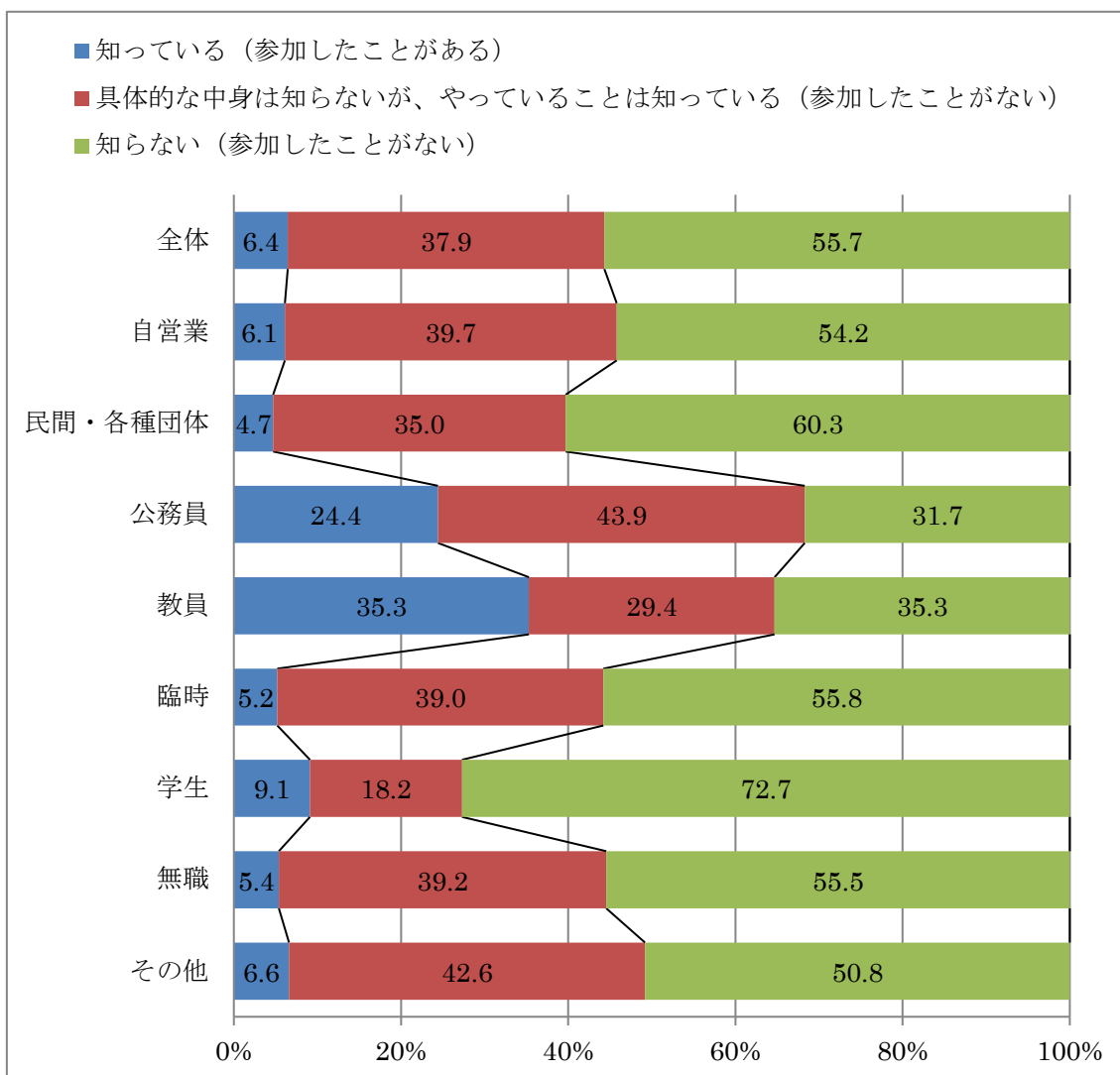
年齢別でみると、「知っている (参加したことがある)」・「具体的な中身は知らないが、やっていることは知っている (参加したことがない)」が、「60代」(52.4%)が最も高く、「30代」(31.6%)が最も低くなっている。

【地域別】



地域別でみると、「知っている (参加したことがある)」・「具体的な中身は知らないが、やっていることは知っている (参加したことがない)」が、「嶺南地区」(53.9%)で最も高く、「福井地区」(40.4%)で最も低くなっている。

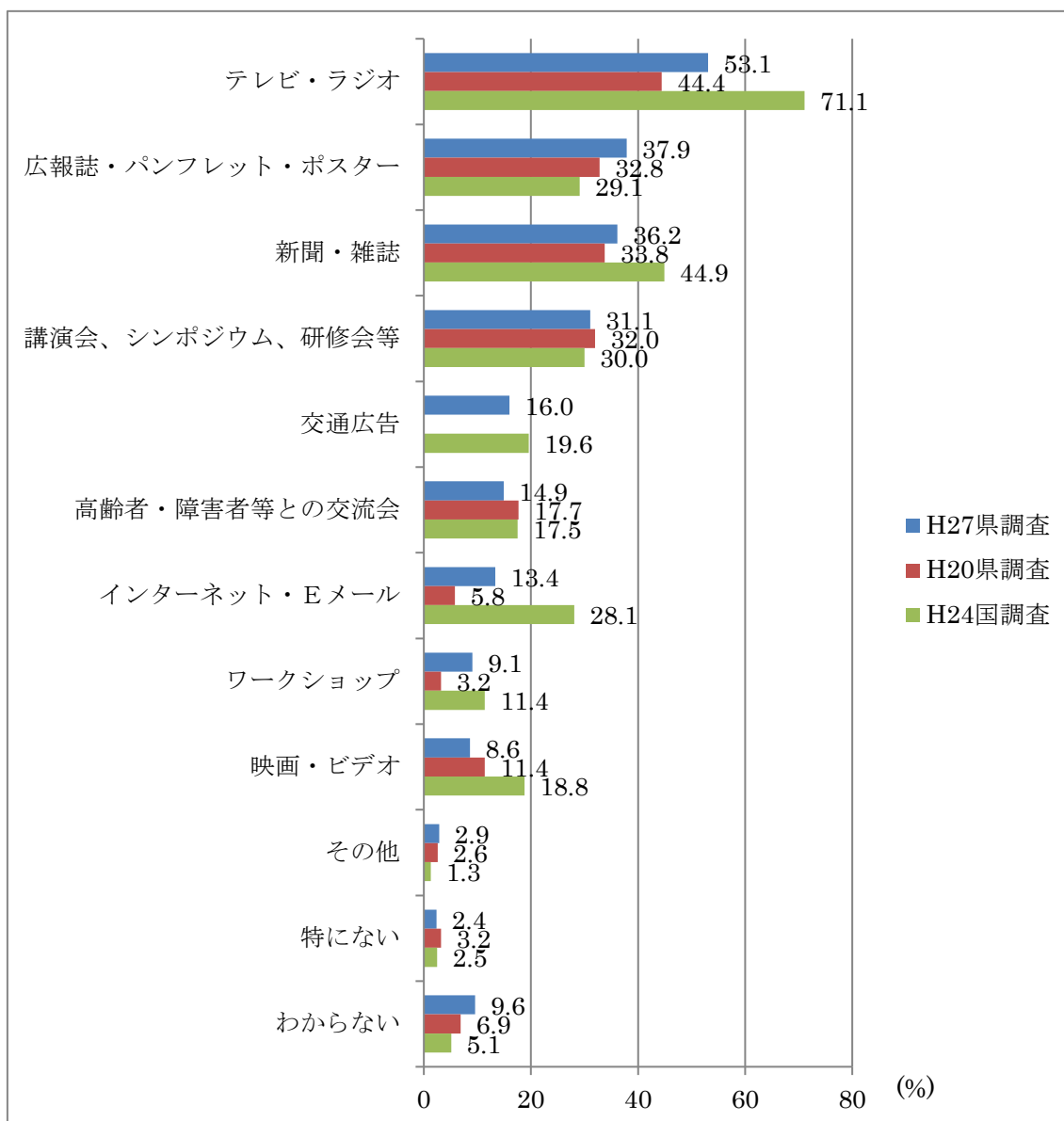
【職業別】



職業別でみると、「知っている (参加したことがある)」・「具体的な中身は知らないが、やっていることは知っている (参加したことがない)」が、「公務員」(67.4%)で最も高く、「学生」(27.3%)で最も低くなっている。

問 2 2 県内において、人権啓発を推進するためには、あなたは県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「テレビ・ラジオ」(53.1%)が最も高く、次いで「広報誌・パンフレット・ポスター」(37.9%)、「新聞・雑誌」(36.2%)となっている。

H20県調査と比較すると、「テレビ・ラジオ」(44.4%→53.1%)などは増加しており、「映画・ビデオ」(11.4%→8.6%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「広報誌・パンフレット・ポスター」(29.1%→37.9%)などは高くなっており、「テレビ・ラジオ」(71.1%→53.1%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

【地域別】

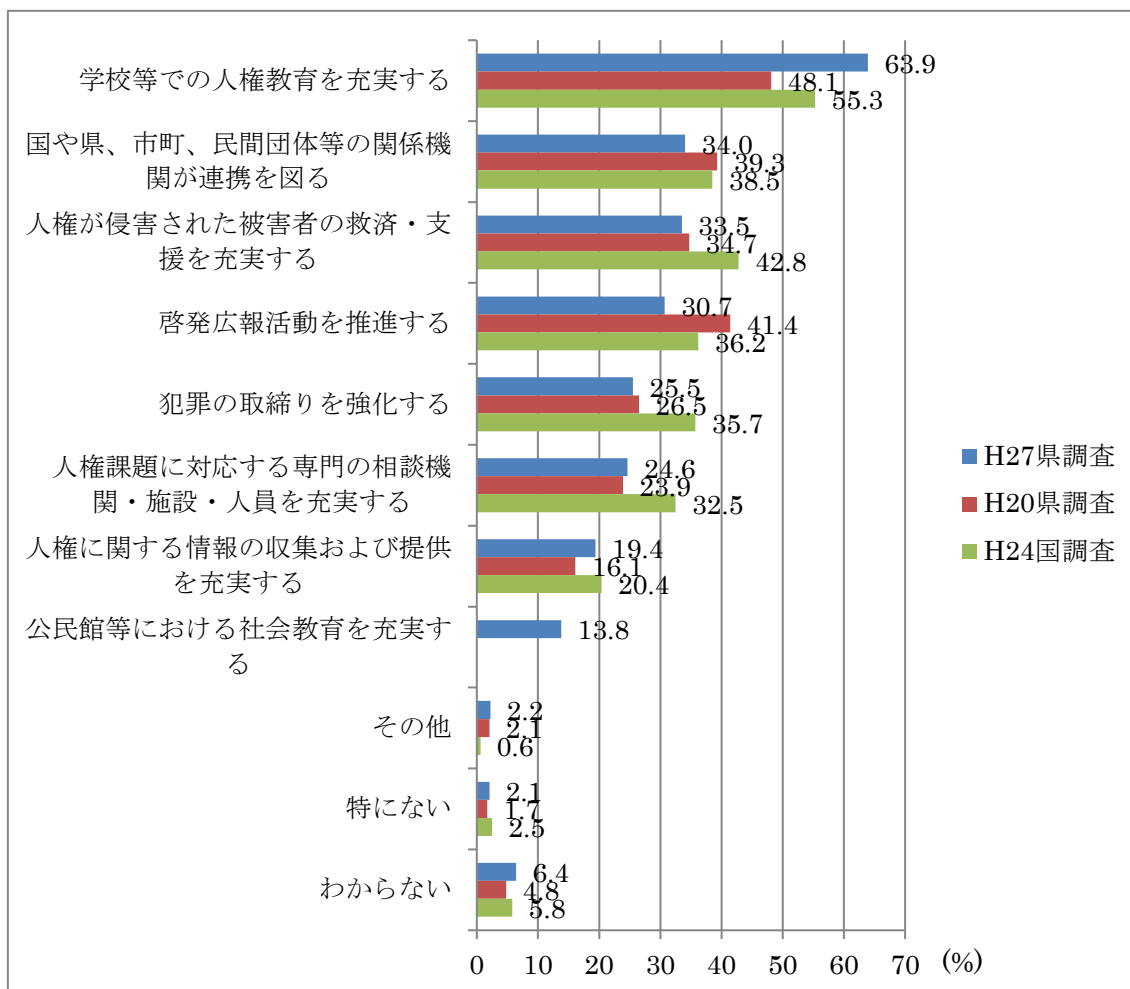
どの地区も「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

【職業別】

「公務員」では、「講演会、シンポジウム、研修会等」が最も高いが、他の職業では、「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

問 2 3 あなたは今後、人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(複数回答可)

【経年比較】



今回の調査では、「学校等での人権教育を充実する」(63.9%)が最も高く、次いで「国や県、市町、民間団体等の関係機関が連携を図る」(34.0%)、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」(33.5%)となっている。

H20県調査と比較すると、「学校等での人権教育を充実する」(48.1%→63.9%)などは増加しており、「啓発活動を推進する」(41.4%→30.7%)などは減少している。

H24国調査と比較すると、「学校等での人権教育を充実する」(55.3%→63.9%)などは高くなっており、「犯罪の取締りを強化する」(35.7%→25.5%)などは低くなっている。

【性別】

男女では、大きな差はみられない。

【年齢別】

どの年代も「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。

【地域別】

どの地区も「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。